



BEA WebLogic Portal

リリース ノート

著作権

Copyright © 2003 BEA Systems, Inc. All Rights Reserved.

限定的権利条項

本ソフトウェアおよびマニュアルは、BEA Systems, Inc. 又は日本ビー・イー・イー・システムズ株式会社（以下、「BEA」といいます）の使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができ、同契約の条項通りにのみ使用またはコピーすることができます。同契約で明示的に許可されている以外の方法で同ソフトウェアをコピーすることは法律に違反します。このマニュアルの一部または全部を、BEA からの書面による事前の同意なしに、複製、複製、翻訳、あるいはいかなる電子媒体または機械可読形式への変換も行うことはできません。

米国政府による使用、複製もしくは開示は、BEA の使用許諾契約、および FAR 52.227-19 の「Commercial Computer Software-Restricted Rights」条項のサブパラグラフ (c)(1)、DFARS 252.227-7013 の「Rights in Technical Data and Computer Software」条項のサブパラグラフ (c)(1)(ii)、NASA FAR 補遺 16-52.227-86 の「Commercial Computer Software--Licensing」条項のサブパラグラフ (d)、もしくはそれらと同等の条項で定める制限の対象となります。

このマニュアルに記載されている内容は予告なく変更されることがあり、また BEA による責務を意味するものではありません。本ソフトウェアおよびマニュアルは「現状のまま」提供され、商品性や特定用途への適合性を始めとする（ただし、これらには限定されない）いかなる種類の保証も与えません。さらに、BEA は、正当性、正確さ、信頼性などについて、本ソフトウェアまたはマニュアルの使用もしくは使用結果に関していかなる確約、保証、あるいは表明も行いません。

商標または登録商標

BEA、Jolt、Tuxedo および WebLogic は BEA Systems, Inc. の登録商標です。BEA Builder、BEA Campaign Manager for WebLogic、BEA eLink、BEA Manager、BEA WebLogic Commerce Server、BEA WebLogic Enterprise、BEA WebLogic Enterprise Platform、BEA WebLogic Express、BEA WebLogic Integration、BEA WebLogic Personalization Server、BEA WebLogic Portal、BEA WebLogic Server および How Business Becomes E-Business は、BEA Systems, Inc. の商標です。

その他の商標はすべて、関係各社がその権利を有します。

リリース ノート

パート番号	日付	ソフトウェアのバージョン
なし	2003 年 8 月	WebLogic Portal 7.0 Service Pack 4

目次

新機能	1-1
移行についての情報.....	1-2
インストール.....	1-2
データベースのコンフィグレーションに関して必要な変更.....	1-3
統合されている製品の使用に関する注意	1-3
サポート対象のプラットフォームについての参照情報	1-3
解決された制限事項.....	1-4
7.0 Service Pack 4 で解決された制限事項.....	1-4
7.0 Service Pack 2 で解決された制限事項.....	1-5
7.0 Service Pack 1 で解決された制限事項.....	1-6
7.0 で解決された制限事項.....	1-7
7.0 において確認されている制限事項とその回避策.....	1-12
E-Business Control Center に関する問題.....	1-12
ポータルとポータルレットに関する問題.....	1-18
ポータル開発および管理に関する問題.....	1-23
ブラウザに関する問題.....	1-45
システム管理に関する問題.....	1-48
インターナショナルライゼーションに関する問題.....	1-56
移行に関する問題.....	1-59
その他の注意事項	1-61



まえがき

『リリース ノート』へようこそ。このマニュアルの他に、以下のリソースも活用されることをお勧めします。

オンライン マニュアルの参照 BEA 製品マニュアルは、BEA 社の Web サイトで公開しています。BEA Home ページで [製品のドキュメント] リンクをクリックするか、「e-docs」製品ドキュメント ページ (<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/>) に直接アクセスしてください。

マニュアルについてのフィードバック BEA WebLogic Portal マニュアルについてのフィードバックをお寄せください。ご質問やコメントがあれば、電子メールで docsupport-jp@bea.com までお送りください。なお、お送りいただく電子メールには、WebLogic Portal バージョン **7.0 Service Pack 4** のマニュアルをお使いであることを明記してください。

BEA WebSUPPORT への連絡 このバージョンの WebLogic Portal について質問がある場合や WebLogic Portal のインストールや実行に問題がある場合は、BEA WebSUPPORT (<http://support.bea.com/welcome.jsp>) を通じて BEA カスタマサポートにご連絡ください。



リリース ノート : リリース 7.0 Service Pack 4

リリース 7.0 をインストールして使用する前に、以下の情報を確認してください。

- [新機能](#)
- [移行についての情報](#)
- [インストール](#)
- [データベースのコンフィグレーションに関して必要な変更](#)
- [統合されている製品の使用に関する注意](#)
- [サポート対象のプラットフォームについての参照情報](#)
- [解決された制限事項](#)
- [7.0 において確認されている制限事項とその回避策](#)
- [その他の注意事項](#)

新機能

WebLogic Portal アプリケーションの実行用にコンフィグレーションされたドメインをコンフィグレーションして、WebLogic Server 7.0 で導入された WebLogic セキュリティ サービスを使用できるようになりました。複数の認証プロバイダを使用できますが、特定の管理作業は単一プロバイダに制限されます。詳細については、「[Switching to a WebLogic 7.0 Security Framework Security Realm](#)」を参照してください。

移行についての情報

WebLogic Platform 7.0 Service Pack 4 には、Platform 7.0 のすべてのコンポーネント (WebLogic Server、WebLogic Workshop、WebLogic Integration、WebLogic Portal、および WebLogic JRockit) の更新用サービスパックが組み込まれています。Platform 7.0 Service Pack 4 は、Platform 7.0 Service Pack 2 以降にリリースされた、最初の完全版 Platform サービスパックです (WebLogic Server 7.0 Service Pack 3 は、WebLogic Server と WebLogic Workshop で利用できますが、WebLogic Platform のユーザはサポートしていません)。

Service Pack 3 のアップグレードインストールでは、既存の WebLogic Integration 7.0、WebLogic Portal 7.0、または完全版 WebLogic Platform 7.0 のインストール環境に Service Pack 3 を適用できません。WebLogic Platform 7.0 Service Pack 4 を使用して、WebLogic Platform 7.0 の全コンポーネントを更新することもできます。

旧バージョンの製品を使用して開発したアプリケーションがある場合、リリース 7.0 より前のデータおよびカスタマイズをリリース 7.0、7.0 Service Pack 1、7.0 Service Pack 2、7.0 Service Pack 4 のインストール環境で利用可能にするには、『移行ガイド』 (<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/platform/docs70/interm/migrate.html>) を参照してください。

インストール

WebLogic Portal 7.0、7.0 Service Pack 1、7.0 Service Pack 2、および 7.0 Service Pack 4 のインストール方法については、『インストールガイド』 (<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/platform/docs70/install/index.html>) を参照してください。

データベースのコンフィグレーションに関して必要な変更

データベースのコンフィグレーションに関する考慮事項については、『管理者ガイド』(<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wlp/docs70/admin/index.htm>)の「システム管理」を参照してください。

統合されている製品の使用に関する注意

サードパーティ製のソフトウェア、サービス、およびアプリケーションに接続し、その動作環境下で WebLogic Portal を使用する場合は、すべてユーザ自身の責任において行うものとします。BEA Systems 社は、このようなソフトウェア、サービス、およびアプリケーションの動作、精度、および結果に対して、いかなる義務および責任も負いません。

サポート対象のプラットフォームについての参照情報

サポート対象のハードウェアとソフトウェアのプラットフォーム、およびそれに関連する動作保証については、『サポート対象プラットフォーム』(<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/platform/docs70/support/index.html>)を参照してください。新しいプラットフォームの動作確認が完了すると、この情報は更新されます。最新の情報を確実に表示するには、ブラウザのキャッシュを更新する必要があります。ファイルの最終更新日は、ブラウザウィンドウのタイトルバーに表示されます。

解決された制限事項

この節では、WebLogic Portal 7.0、7.0 Service Pack 1、7.0 Service Pack 2、および7.0 Service Pack 4 で解決された確認済み制限事項について説明します。詳細については、以下の節を参照してください。

- [7.0 Service Pack 4 で解決された制限事項](#)
- [7.0 Service Pack 2 で解決された制限事項](#)
- [7.0 Service Pack 1 で解決された制限事項](#)
- [7.0 で解決された制限事項](#)

7.0 Service Pack 4 で解決された制限事項

この節では、WebLogic Portal の旧バージョンで確認されていた制限事項のうち、7.0 Service Pack 4 で解決されたものについて説明します。

CR 番号	解説
CR063334	AIX で JIT を有効にして顧客プロファイルを作成するとコア ダンプが発生する。
CR079085	サーバの起動直後に多くのクライアントがポータル Web アプリケーションにページ リクエストを送信すると、JVM がクラッシュする。
CR080079	ルール セットの無いドメインに対して <code>RuleSetNotFoundException</code> が送出される。
CR080278	グループを選択しないで <code>sampleportal</code> ログインするとエラーが発生する。
CR080752	Migration Viewer を起動するためのスクリプト (<code>viewer.sh</code>) にエラーがある。
CR082770	グループを選択しないで <code>sampleportal</code> ログインするとエラーが発生する。

CR 番号	解説
CR087498	filerealm.properties commercePool または customPool を WebLogic Portal 4.0 から WebLogic Portal 7.0、7.0 Service Pack 1、7.0 Service Pack 2、または 7.0 Service Pack 4 に移行すると、「java.sql.SQLException: weblogic.common.ResourceException: Access not allowed」というエラーメッセージが表示される。
CR090608	新規に作成した割引のデータ同期を行うと、DiscountParsingException が送出される。
CR095079	「CreateManagedConnection Error: SQL Exception: No suitable driver」
CR095121	Sybase で sampleportal SQLException が発生する。
CR096076	ポートレットで複数の Webflow ネームスペースを使用できない。
CR097829	Portal Wizard で作成した web.xml ファイルが不正であるために SAXParseException が発生する。
CR098629	ポータルアプリケーションを ear ファイルとしてデプロイすると、それ以降、WebLogic Server 6.1 コンソールで application-config.xml を変更できない。
CR101849	WebLogic Portal の今回のリリースでは、WebLogic Server 7.0 セキュリティフレームワークのサポートを実現。

7.0 Service Pack 2 で解決された制限事項

この節では、WebLogic Portal の旧バージョンで確認されていた制限事項のうち、7.0 Service Pack 2 で解決されたものについて説明します。

CR 番号	解説
CR76471	ポータル キャッシュへの並行アクセスにより、java.lang.NullPointerException が発生する。
CR78752、 CR62867	NT でネイティブ IO を使用すると Socket Muxer の問題が発生する。

CR 番号	解説
CR78912, CR82903	Portlet Wizard に壊れたリンクがある。
CR79828	baseportal Web アプリケーションが、すべてのポータル サービス用に完全にコンフィグレーションされていない。
CR80390	「モジュールを追加できない」というメッセージで、ホット デプロイが失敗する。
CR81677	データソースを対象外にしてから再び対象にすることができない。
CR83798	E-Business Control Center で新しいプロジェクトのポータルを編集できない。
CR84173	データの同期が完了しても、データ同期の進行を示すバーの表示が 100% にならない。
CR85808	ポータル Web アプリケーションを Platform ドメインにホット デプロイできない。

7.0 Service Pack 1 で解決された制限事項

この節では、WebLogic Portal の旧バージョンで確認されていた制限事項のうち、7.0 Service Pack 1 で解決されたものについて説明します。

CR 番号	解説
CR45118	<code>weblogic.utils.AssertionError</code> でサーバが終了する。
CR70035	WebLogic Portal Console 拡張機能が、WebLogic Server Console の言語設定を使用しない。
CR73489	データ同期中に、マルチバイト文字セットのデータで PointBase がハングする。
CR76775	国際化用のタグで、更新されたリソース バンドル ファイルを検出しなければならない。
CR77469	マルチバイト文字セット データを含むグループ ポータル名が正しく表示されない。
CR77971	マルチバイト文字セット データが、Portal Wizard で正しく処理されない。

CR 番号	解説
CR78590	マルチバイト文字セット データを含むポートレット名が、正しくコード化されない。
CR79145	Webflow のネームスペースで、マルチバイト文字セット データを使用できない。
CR79160	ポータル ページ名に、マルチバイト文字セット データを使用できない。
CR79175	<i18n:getMessage> タグが、<i18n:localize> タグで設定されたデフォルト言語を使用しない。
CR79208	ポートレット名に各国語文字を使用すると、ポートレットのアイコン URL で問題が発生する。
CR79502	ポートレット名にマルチバイト文字セット データを使用すると、アイコンが正しく表示されない。
CR79512	統計を生成 (create_stats) する際に、create_db で問題が発生する。
CR79578	configjca が、Oracle に対して正しくないドライブ名をエコーする。
CR80231	ポートレット名にマルチバイト文字セット データが使用されていると、ポートレットを最大化または最小化できない。
CR80236	ポータル ページ名にマルチバイト文字セット データが使用されていると、Admin Tools でそのポータル ページに対するレイアウトが表示されない。
CR80283	ポータル ページ名にマルチバイト文字セット データが使用されていると、そのポータル ページに対するポートレットを編集できない。

7.0 で解決された制限事項

この節では、WebLogic Portal の旧バージョンで確認されていた制限事項のうち、7.0 で解決されたものについて説明します。

CR 番号	解説
CR033972	TransposeArray ID が認識されない。

CR 番号	解説
CR035481	クラスタ環境では、ユーザが最初にログインした時点でショッピング カートの中身が失われる。
CR035483	クラスタ環境では、セッション タイムアウトを受け取る。
CR035571	<code>weblogic.class.path</code> 内の EJB に対してホット デプロイが機能しない。
CR043378	バルク ロードが <code>StackOverflowError</code> 例外を送出する。
CR044675	E-Business Control Center のプレビュー領域で、DBCS (2 バイト文字) の電子メールの表示が乱れる。
CR044825	EJB の再デプロイメントに関する警告メッセージ。
CR045896	Personalization ライセンスまたは Commerce ライセンスでは、 <code>Loadsampledata</code> によってサーバが停止する。
CR047033	<code>PipelineSession</code> のリクエスト スコープ属性が、HTML フレームで機能しない。また、クライアントの 2 つのブラウザが同じ WebLogic Commerce Server アプリケーションにアクセスしても機能しない。
CR047334	HTML の電子メールが正しく送信されない。
CR047061	拡張子が <code>htm/html</code> の静的ポートレットがポータルに表示されない。
CR049144	<code>exampleportal</code> で HTML ファイルをポートレットにすることができない。
CR051123	新しいイベントを保存できない。
CR051324	Oracle 8.1.7 と Windows 2000 の <code>loadSampleData.bat</code> に関する問題。
CR052709	<code>web.xml</code> ファイルにおいて、 <code>WLCS_STATIC_ROOT</code> パラメータのサーバ値がハードコーディングされている。
CR058376	Web アプリケーションに対する <code>tools</code> や <code>toolSupport</code> などのウェルカム ファイルが、システムで処理されない。
CR058616	行動追跡の永続性は、アプリケーション スコープでなければならない。
CR058726	WebLogic Server LDAP レルム V2 でシステムが動作しない。
CR058836	<code>discounts2.xml</code> における 32K のデータ サイズ制限。

CR 番号	解説
CR059442	プロパティ セット定義文字の制限に達したときの動作が正しくない。
CR059581	サンプル アプリケーションに対する例外処理が、クラスタでは機能しない。
CR059781	接続設定において特定の接続に対する不正なユーザ名とパスワードを訂正できない。
CR059879	ポータルの例外がクラスタで機能しない。
CR060145	ポータル アプリケーションのコピーがウェルカム ファイルを使用しない。
CR060290	LDAP のグループ管理者編集の認証でエラーが発生する。
CR060301	[表示フラッシュ サイズ] の値が、サーバを再起動するまでサーバに適用されない。
CR060341	マルチバイト文字セットで定義されている Oracle データベースで LoadSampleData.bat を実行すると、ポータル サーバが起動しなくなる。
CR060774	startP13n.bat を使用してパーソナライゼーションのサンプル Web アプリケーションにアクセスしようとする、404 番のエラーが返される。
CR060799	Oracle 8.1.7 実行中の NT で複数のユーザが同時にログアウトすると、データベースのデッドロックが発生する。
CR061396	サブグループを検索すると、「グループが見つからない」というメッセージが返される。
CR061496	JDBC 仕様に対するデータベース固有の拡張を使用した CLOB/BLOB の読み取り / 書き込みを可能にするには、JdbcHelper に対して実装の代理を作成する必要がある。
CR062205	CommerceInputProcessor.getPipelineSession(req,true) に代わる機能がない。
CR062217	portalTools で新しいレイアウトを使用すると、IllegalArgumentException が送出される。
CR063019	ポートレットのディレクトリ名で大文字と小文字が区別される。サンプルの XML ポートレットがエクスプローラに表示されない。
CR063049	Oracle Thin ドライバと代理で CLOB データベースの挿入 / 更新が機能しない。

CR 番号	解説
CR063919	JSP 管理ツールに、ポートレットの「移動可能」属性がない。
CR064026	stockportal のログイン選択グループで、他のメンバグループのすべてのグループが表示されてはならない。
CR064149	WebLogic Commerce Server でのビルドと起動に問題がある。Web アプリケーションに対する null のため、Webflow エラーが発生する。
CR064221	Windows 以外の OS で、複数行のプロパティに CTRL-M が追加される。
CR064429	set-environment.bat ファイルに SQL Server 2000 のクラスの定義がある。
CR064640	ブラウザの [戻る] ボタンで Webflow のフォーム タグに関する問題が発生する。
CR064670	データベースの create_all スクリプトがトリガを処理しない。
CR064777	TU_ENTL_RULESET、TU_RESOURCE_GROUP_ADMIN、および TU_P13N_LAYOUT における Sybase のトリガ エラー。
CR064817	Linux において、set-environment.sh ファイルによって LD_LIBRARY_PATH が正しく設定されない。
CR064821	Solaris DB2 でポートレットの最小化可能属性を変更すると、例外が返される。
CR064897	入力プロセッサのホット デプロイにより Web アプリケーションが破壊され、再デプロイが必要となる。
CR065223	「移動可能」属性がない。
CR065370	stockportal では、[複数グループ] ボックスを選択すると classcast 例外が発生する。
CR065440	E-Business Control Center の Tour1 と Tour2 を変更して同期させると、StartPortal の不正な XML のためにエラーが発生する。
CR065566	ショッピング カートに商品を追加できない。
CR065781	ファイル名にマルチバイト文字を使用すると、データベースが破損する。
CR066776	ユーザが複数のグループに属している場合に stockportal にログインすると、java.lang.ClassCastException が発生する。

CR 番号	解説
CR067696	ライセンスの有効期限が切れると、E-Business Control Center においてエクスプローラが機能しなくなる場合がある。
CR067935	UTF-8 Oracle データベースに対して同期を取ると、ポータルサーバが起動しない。
CR069058	<code><um:createUser saveAnonymous="true"></code> が機能しない。
CR071557	RDBMSDelegate <code>getUser()</code> と <code>getGroupMembers()</code> について、RDBMSRealm にパフォーマンスの問題がある。
CR072316	サーブレット フィルタが、「 <code>java.lang.IllegalStateException: Unable to extract ServletContext from Request</code> 」を送出する。
CR073932	HP-UX 11 の Sybase 12 jConnect5.2/Segment Integration に問題がある。
CR074480	<code>set-env</code> ファイルと <code>databaseload.properties</code> ファイルに Thin の設定がない。
CR075135	AIX 433 - DB2 7.2 Native に、新規ユーザの作成に関する問題がある。
CR075212	<code>webflow:validatedForm</code> タグに余分なパラメータが必要である。
CR075335	<code>resourceURL.inc</code> におけるファイルパスの参照が正しくないため、スキンが表示されない。
CR075601	WebflowJSPHelper がリダイレクトの URL に対して二重の疑問符を生成する。
CR076577	[表示フラッシュ サイズ] の値が、サーバを再起動するまでサーバに適用されない。
CR076667	Linux 7.2 の Sybase 1192 に、 <code>java.lang.OutOfMemory</code> 例外が発生する問題がある。
CR076825	コンソールから <code>ApplicationConfiguration</code> を対象にできない。
CR077354	SQL2000 データベースを使用するサーバに Solaris から E-Business Control Center を同期させると、 <code>PersistenceException</code> が発生する。
CR052478	<code>javax.management.MBeanAttributeInfo#attributeType</code> に対する <code>ClassCastException</code> の文字列。
CR064192	Visual Source Safe によって作成される <code>scc</code> ファイルが無視されない(特に検証において)。

7.0 において確認されている制限事項とその回避策

以下の節では、WebLogic Portal 7.0 の問題に関する確認済みの制限事項と回避策を、製品を構成する要素別に説明します。

詳細については、以下の節を参照してください。

- [E-Business Control Center に関する問題](#)
- [ポータル開発および管理に関する問題](#)
- [ブラウザに関する問題](#)
- [システム管理に関する問題](#)
- [インターナショナルライゼーションに関する問題](#)
- [移行に関する問題](#)

E-Business Control Center に関する問題

この節では、E-Business Control Center に関する問題から生じる確認済みの制限事項とその回避策について説明します。以下の表に加えて、詳細については次の節を参照してください。

- [ポータルとポートレットに関する問題](#)

表 1 E-Business Control Center に関する制限事項と回避策

CR033436	データサイズの検証に関する問題。
問題	すべての WebLogic Portal ツールおよびサンプルでは、独自の Web アプリケーションにおいてデータ検証を行う最善のタイミングと方法の決定は、ユーザに任されています。
プラットフォーム	すべて
回避策	例： ユーザ管理ツールを使うと、ユーザに顧客プロパティを設定できます。長さは 255 文字に制限されています。一方、データベースに格納される顧客プロパティには異なるサイズ制限があり、プロパティ値がデータベースでの制限を超える場合は、例外が送出されてプロパティ値は設定されません。顧客プロパティの長さをデータベースのカラムのサイズに制限することができます。
CR035555	ドキュメント管理用 XML スキーマ ファイルを変更した場合、E-Business Control Center に変更内容が表示されない。
問題	ファイルシステムの XML ファイル (doc-schema.xml など) からスキーマ情報を取得する参考ドキュメントリポジトリでは、XML スキーマ ファイルを変更した場合、E-Business Control Center に変更内容が表示されません。新しいメタデータプロパティのあるコンテンツに対して BulkLoader、loaddocs、または loadads を実行すると、XML スキーマ ファイルが変化します (doc-schema.xml など)。
プラットフォーム	すべて
回避策	WebLogic Server Console (http://localhost:7501/console) を使用してドキュメント接続プールを再起動します。
CR060459	E-Business Control Center において、割引エディタが SKU の長いリストをサポートしない。
問題	E-Business Control Center では、割引のトリガおよび対象ウィンドウの SKU および商品カテゴリ ID のリストにより、割引エディタのレイアウトが乱れる場合があります。SKU または商品カテゴリ ID の番号が長い場合、[ウィザード] ボタンが表示されなくなり、他のフィールドが短くなります。
プラットフォーム	すべて

表 1 E-Business Control Center に関する制限事項と回避策（続き）

回避策	このような状況において [ウィザード] ボタンを使用する必要がある場合は、問題の原因となっている対象商品またはトリガ商品を修正して、別のタイプに変更するか、SKU または ID を削除します。問題の対象商品またはトリガ商品を削除すると、表示が更新されて、正常なレイアウトに戻ります。
CR080212	オンデマンド データ同期を使用する際に任意のユーザ名とパスワードを入力できるため、セキュリティが侵害されているという誤った印象を与える。
問題	<p>この問題は、E-Business Control Center セッションを開始し（ツールの開始から終了までの間）、ログイン ダイアログに正しいユーザ名とパスワードを入力して、サーバに正常に接続（データ同期、カタログ ブラウズ、電子メール URI ブラウズなどを通して）した後で、発生するおそれがあります。その後で接続を作成または変更し、新しい接続の同期を取ろうとすると、再びログイン ウィンドウが表示され、ユーザ名とパスワードの入力を求められます。システムは、そのセッションに対してもともと使用されているユーザ名とパスワードをまだ認識しているので、新しく入力したユーザ名とパスワードは実際には無視されます。</p> <p>無効なユーザ名とパスワードを入力しても受け入れられるように見えるので、ユーザはセキュリティが侵害されているという誤った印象を受けます。しかし、セキュリティは侵害されていません。システムは、冗長なウィンドウで入力された情報はすべて無視し、セッションに対してすでに検証されているユーザのユーザ名とパスワードに基づいて動作します。</p>
プラットフォーム	すべて
回避策	<p>現時点では、冗長なログイン ウィンドウの表示を抑止する方法はありませんが、ユーザを変更することはできます。</p> <p>E-Business Control Center の任意またはすべての接続ポイントについてユーザを変更するには</p> <ol style="list-style-type: none">1. 接続を更新します。2. E-Business Control Center を終了して再起動します。3. データ変更の同期を取ります。
CR078138	Solaris で E-Business Control Center を起動すると、「文字列を変換できない」という警告が表示される。
問題	Solaris で E-Business Control Center を起動すると、「Warning: Cannot convert string」というメッセージを受け取ります。これは、JDK と X Window に関する問題です。

表 1 E-Business Control Center に関する制限事項と回避策（続き）

プラットフォーム	Solaris
回避策	<p>このメッセージは、E-Business Control Center の動作に悪影響を及ぼすものではありません。無視することができます。または、<code>/usr/lib/X11/XKeysymDB</code> ファイルの削除や名前変更を行うことができます。XKeysymDB ファイルを削除できない場合は、E-Business Control Center のシェル スクリプト <code>ebcc.sh</code> を修正し、以下の行 303 を変更します。</p> <pre>eval \$jdkhome/bin/java \$thread_flag \$jargs -classpath "\"\$cp\"" side \$args</pre> <p>これを、以下のように変更します。</p> <pre>eval \$jdkhome/bin/java \$thread_flag \$jargs -classpath "\"\$cp\"" side \$args 2>/dev/null</pre> <p>注意： E-Business Control Center は、UNIX ではサポートされていません。</p>
CR084181	ホット デプロイが機能するには、E-Business Control Center をサーバと同じ物理マシンで実行しなければならない。
問題	<p>E-Business Control Center のホット シンク機能は、E-Business Control Center を WebLogic Portal と同じマシン上で実行している場合のみ使用できます。E-Business Control Center は、自身が稼動しているマシンにのみ Web アプリケーション ファイルを作成します。これらのファイルはリモートマシンに転送できません。したがって、E-Business Control Center によって、あるマシンから別のマシンに新しいポータルをデプロイすることはできません。</p>
プラットフォーム	すべて
回避策	<p>E-Business Control Center から別のマシンに対してホット デプロイを実行しないでください。つまり、ホット デプロイは、サポート対象の E-Business Control Center プラットフォーム上でのみ動作します。</p>
CR083319	2 台のマシン間でデータ同期を実行すると、「読み取りタイムアウト」のエラーが発生する。
問題	<p>2 台のマシン間でデータの同期を実行すると、「A problem was encountered adding a listener to the master data repository... java.io.InterruptedIOException: Read timed out」というエラー メッセージが記録されます。</p>

表 1 E-Business Control Center に関する制限事項と回避策（続き）

プラットフォーム	すべて
回避策	このメッセージは無害なので、無視してかまいません。
CR093259	Linux を使用すると、E-Business Control Center の [ヘルプ 製品について] をクリックして表示されるウィンドウが乱れる。
問題	Linux にバンドルされている XFree86 (X Window System) で、E-Business Control Center GUI の一部のコンポーネントを表示する際に問題が発生します。
プラットフォーム	Linux
回避策	CR078138 の場合と同様に、Win32 プラットフォームで E-Business Control Center を使用します。 注意： E-Business Control Center は UNIX ではサポートされていません。
CR095636	E-Business Control Center でポートレットを削除すると、サーバのコンソールにエラー メッセージが表示される。
問題	E-Business Control Center でポートレットを削除しても、ポータル定義内の削除したポートレットへの参照は自動的に削除されません。削除したポートレットを参照するポータル定義を更新することなく同期を取ると、整合性が失われた状態になり、以下の形式のエラー メッセージが表示されます。 <pre><Jan 20, 2003 5:30:45 PM MST> <Error> <PortalManager> <415455> <Portlet "QuickLinks" not found.> <Jan 20, 2003 5:30:4 PM MST> <Error> <PortalManager> <415451> <Portlet "QuickLinks" not found in portlet pool for portal "sampleportal/sampleportal".></pre> 注意： "QuickLinks" は削除されたポートレットの名前です。
プラットフォーム	すべて
回避策	E-Business Control Center で、削除したポートレットを参照するポータルを開きます。削除されたポートレットごとに、そのポートレットをポータルから除去するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。[はい](ポータルからポートレットを除去)を選択すると、ポータルの定義が正しく更新されます。保存して同期をとると、エラー メッセージは表示されなくなります。

表 1 E-Business Control Center に関する制限事項と回避策 (続き)

CR102505	Windows の「Program Files」ディレクトリに E-Business Control Center をインストールすると実行されない。
問題	Windows の「Program Files」ディレクトリにインストールした E-Business Control Center を起動しようとすると、ポップアップウィンドウが開いて「Cannot load jvm.dll」というメッセージが表示され、起動に失敗します。
プラットフォーム	Windows
回避策	<ol style="list-style-type: none"> 1. <bea-home>/weblogic700/ebcc/bin/ide.cfg を編集します。 2. 「Program Files」に対するすべての参照を Windows の短縮名 PROGRA~1 に置き換えます。
CR104177	Webflow エディタのレイアウト ファイルのタイムスタンプが、対応する Webflow ファイルよりも古い場合は、E-Business Control Center によってそのレイアウト ファイルが破棄される。
問題	<p>Webflow ファイルを編集してそのレイアウトを変更すると、E-Business Control Center によってレイアウト ファイル (拡張子 .ui) が作成されます。E-Business Control Center で Webflow ファイルを開くと、webflow (.wfl) ファイルとレイアウト (.ui) ファイルのタイムスタンプが比較され、レイアウト ファイルのタイムスタンプが Webflow ファイルよりも 10 秒以上経過している場合、そのレイアウト ファイルは破棄されます。</p> <p>ソース制御システムによってファイルのタイムスタンプが変更されると、前述の動作によって問題が発生することがあります。タイムスタンプの不一致のために、E-Business Control Center がレイアウト ファイルを破棄するからです。</p>
プラットフォーム	すべて
回避策	<p>E-Business Control Center は、新しい IDE コンフィグレーション プロパティ「checkUIFile.uptodate」を備えています。Webflow ファイルと Webflow レイアウト ファイル間における、E-Business Control Center の Webflow エディタのタイムスタンプ比較を無効にするには</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (<ebcc-install>/bin ディレクトリ) にある E-Business Control Center の「ide.cfg」ファイルに J-DcheckUIFile.uptodate=false を追加します。 2. E-Business Control Center を再起動します。

ポータルとポートレットに関する問題

この節では、E-Business Control Center におけるポータルとポートレットの問題に関する確認済みの制限事項とその回避策について説明します。

表 2 ポータルとポートレットに関する確認済みの問題と回避策

CR079688	7.0 SP 4 では、E-Business Control Center でポートレットを削除しても、ポータルのコンフィグレーションからは削除されない。
問題	E-Business Control Center の外部で、または E-Business Control Center 内のエクスプローラ ペインの外部で、ファイルシステムからポートレットを削除しても、E-Business Control Center で開いている、削除したポートレットを含むポータル エディタ ウィンドウの表示は更新されません。
プラットフォーム	すべて
回避策	ポータル エディタ ウィンドウを閉じて開き直すと、ポータル定義の表示が更新されます。削除されたポートレットはポータルの一部として表示されなくなります。
CR075598 および CR085087	Web Service Portlet Wizard での変更を有効にするには、サーバを再起動する必要があります。
問題	サーバを再起動しないでアプリケーションを再デプロイすると、ポータルは WEB-INF/lib ディレクトリの新しい .jar ファイルを取得しません。
プラットフォーム	すべて
回避策	WebLogic Server Console から Web アプリケーションを再デプロイしてください。この方法は、WebLogic Portal に付属する sampleportal を除くすべての Web アプリケーションに対して使用できます。Portlet Wizard で行った変更を sampleportal に反映するには、サーバを再起動する必要があります。
CR076345	ブラウズ機能が長いディレクトリ名の WSDL ファイルを取り出した場合、Portlet Wizard は操作を取り出すことができない。
問題	Portlet Wizard でポートレットに Web サービスを追加し、WSDL ファイルをブラウズした場合、ディレクトリ名が 255 文字より長いと、操作を取り出すことができません。

表 2 ポータルとポートレットに関する確認済みの問題と回避策 (続き)

プラットフォーム	Windows
回避策	ディレクトリ名の長さを 255 文字以下にします。
CR077079	Web Services Portlet Wizard の .jar ファイル名は一意でなければならない。
問題	Portlet Wizard で作成し、Web サービス ポートレットで使用する .jar ファイルの名前が一意でない場合、例外が発生します。
プラットフォーム	すべて
回避策	Web サービス ポートレットで使用するすべての .jar ファイルの名前を一意にします。
CR078633	ある Web サービスで WebLogic Server の clientgen が失敗すると、それ以降、別の Web サービスから操作を選択できなくなる。
問題	Web Services Portlet Wizard の [Web サービス] ウィンドウで、WebLogic Server の clientgen が失敗する Web サービスを選択すると、別の有効な Web サービスと操作を選択できません。それ以降、すべての操作は淡色表示になります。
プラットフォーム	すべて
回避策	Web Services Portlet Wizard を閉じてから再起動します。
CR078658	デフォルト Web アプリケーションとしてポータル Web アプリケーションを選択すると問題が発生する。
問題	デフォルト Web アプリケーションとしてポータル Web アプリケーションを選択すると、以下の問題が発生します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ スキンのプレビューが表示されない。 ■ レイアウトのプレビューが表示されない。 ■ ポートレットの配置が機能しない。
プラットフォーム	すべて

表 2 ポータルとポータルレットに関する確認済みの問題と回避策 (続き)

回避策	ポータル Web アプリケーションは、ポータル管理アプリケーションがデプロイされているのと同じ DNS ドメインの下にデプロイする必要があります。
CR079395	あるポータルレットの参照先 Web サービスの WSDL にアクセスしたり WSDL を利用したりできない場合、ユーザはポータル Web アプリケーション全体にアクセスできなくなる。
問題	ポータルレット JSP が例外を送出すると、ユーザはポータル Web アプリケーション全体にアクセスできなくなる場合があります。
プラットフォーム	すべて
回避策	ポータルレットの例外を処理します。詳細については、『開発者ガイド』(http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wlp/docs70/dev/index.htm) の「例外遷移を追加する」を参照してください。「 CR076399 」も参照してください。
CR079919	シングルサインオンを利用する場合は、Web アプリケーション間に共通のクッキー名をすべてのアプリケーションで使用しなければならない。
問題	Web アプリケーション間で転送が正しく動作するためには、各 Web アプリケーションの <code>weblogic.xml</code> ファイルに共通のクッキー名が設定されていなければなりません。
プラットフォーム	すべて
回避策	Web アプリケーション間で単一のクッキーセッション ID を使用するには各 Web アプリケーションの <code>weblogic.xml</code> ファイルの <code>CookieName</code> セッションパラメータを、同じパラメータ名に変更します。 例： <pre><session-param> <param-name>CookieDomain</param-name> <param-value>JSESSIONID_SAMPLEPORTAL</param-value> </session-param></pre> 「 CR044788 」も参照してください。

表 2 ポータルとポートレットに関する確認済みの問題と回避策 (続き)

CR080181	英語以外のシステム ロケールを使用すると、Portal Wizard で表示されるホット デプロイのステータス メッセージが乱れる場合がある。
問題	E-Business Control Center で英語以外の一部のロケール (日本語など) を使用すると、[ホット デプロイメントの処理状況] ダイアログ ボックスの [詳細] ウィンドウに表示されるメッセージの文字列が乱れることがあります。
プラットフォーム	すべて
回避策	このようなメッセージはホット デプロイメントに影響しないので、無視してかまいません。
CR080771	Portal Wizard でホット デプロイを行っている間は、どの Web アプリケーションにもアクセスできない。
問題	E-Business Control Center を使って新しい Web アプリケーションをホット デプロイする処理の過程で、同じドメインに属するデプロイ済みの Web アプリケーションに一時的にアクセスできなくなります。内部サーバで 500 番のエラーが発生します。 これは、ホット デプロイメントによってエンタープライズアプリケーション全体が再デプロイされるためです。したがって、ホット デプロイメントが終了するまでの間、モジュールにはアクセスできません。
プラットフォーム	すべて
回避策	ホット デプロイメントの完了を待ってから、既存の Web アプリケーションに対するブラウザを更新してください。Web アプリケーションが再び表示されます。

表 2 ポータルとポータルレットに関する確認済みの問題と回避策 (続き)

CR080803	Portal Wizard で異なるドメインに対し連続してホット デプロイを行うことができない。
問題	Domain Configuration Wizard で 2 つのドメインを作成した後、最初のドメインにポータル Web アプリケーションをホット デプロイし、次いで 2 番目のドメインにポータル Web アプリケーションをデプロイすると、2 番目のドメインでのホット デプロイが失敗します。さらに、ホット デプロイのログの情報ではホット デプロイが正常に終了したようになっていますが、これは誤りです。
プラットフォーム	すべて
回避策	別のドメインに切り替える前に、E-Business Control Center を再起動してください。これにより、異なるドメインでの Web アプリケーションのホット デプロイに関する問題は回避されます。
CR080109	Portal Wizard でホット デプロイが失敗した後に再試行できない。
問題	E-Business Control Center で Portal Wizard を使用して Web アプリケーションをホット デプロイするとき、何らかの理由 (サーバが稼働していない、無効なユーザ名 / パスワードを入力したなど) で Web アプリケーションのホット デプロイに失敗すると、デプロイメントを再試行できなくなります。Portal Wizard を起動し直して新しいポータルを作成するか、または新しいポータル Web アプリケーションを手動でデプロイする必要があります。
プラットフォーム	すべて
回避策	なし

表 2 ポータルとポートレットに関する確認済みの問題と回避策 (続き)

CR082251、 CR075661	記述に & や <..> が含まれていると、ポータルが一覧に表示されない。
問題	ポータル、ポートレット、およびポータルページの名前に <、>、&、# などの特殊文字を使用すると、E-Business Control Center および Portal Administration Tools でエラーが発生する場合があります。
プラットフォーム	すべて
回避策	特殊文字を含むポータル名を変更するには、テキストエディタを使って .portal ファイルを編集し、特殊文字を削除します。アルファベット以外の文字を含むポータルページ名やポートレット名によるエラーを防ぐため、ポータルページとポートレットの名前には常に、アルファベット、数字、およびアンダースコア (_) のみを使用してください。

ポータル開発および管理に関する問題

この節では、一般的なポータル管理の問題に関する確認済みの制限事項と回避策について説明します。

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策

CR044788	Web アプリケーションごとにセッションに対して異なるクッキー名を使用する必要がある。
問題	WebLogic Portal のサンプルアプリケーションはシングルユーザのサインオン機能を使わないまたは必要としないため、サンプルアプリケーションでは、weblogic.xml の記述子で Web アプリケーションごとに個別のクッキー名がコンフィグレーションされています。プロキシサーバのプラグインの設定は、通常、単一のクッキーだけを認識するので、このコンフィグレーションでプロキシサーバを使用する場合は、プラグインの設定を変更する必要があります。
プラットフォーム	すべて

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

回避策	<p>パスでプロキシ処理を行うよう、プラグインをコンフィグレーションします。たとえば、次のようにします。</p> <pre>ppath=*/webapp1/* => set CookieName="foo" ppath=*/webapp2/* => set CookieName="bar"</pre> <p>NSAPI プラグインの場合は、複数のオブジェクトを定義することで簡単に対応できます。ISAPI の場合は、仮想ディレクトリを定義し、異なる CookieNames を持つ異なる iisproxy.ini ファイルを示すことで実現できます。ただし、現在、Apache では CookieNames の上書きが認められていないので、この方法は使用できません。「CR079919」も参照してください。</p>
CR047792	Administration Tools で必要なプロパティ値を指定しないで wlcs_customer タイプのユーザを作成すると、ログイン時にテンプレート エラーが発生する。
問題	<p>WebLogic Portal Administration Tools で wlcs_customer タイプのユーザを作成するとき、必須のプロパティに設定されていない値があると、そのユーザでログインするときにテンプレートでエラーが発生します。</p>
プラットフォーム	すべて
回避策	<p>Administration Tools を使うのではなく、登録を使ってテンプレートにログインし、wlcs_customer タイプのユーザを作成します。Administration Tools を使用する場合は、すべての必須ユーザ プロパティ (* の印があるフィールド) に値を入力してください。</p>
CR054787	「wlcs_customer」グループに属していないユーザで Weblogic Commerce Server アプリケーションにログインすると、予期しない動作が生じる。
問題	<p>WebLogic Commerce Server のサンプル アプリケーションでは、WEB-INF/web.xml のセキュリティ制約を使用して、WebLogic Commerce Server サンプル アプリケーションの「ログイン」リンクにフォームベースの認証が指定されます。このセキュリティ制約は、CustomerRole (wlcs_customer グループ) のメンバーだけにアクセスを許可するようにコンフィグレーションされます。</p> <p>wlcs_customer グループのメンバーでない有効なユーザがログインしようとする、そのユーザは認証されますが、WebLogic Commerce Server サンプル アプリケーションの保護されたリソースへのアクセスは認可されません。このような状況は認証エラーとして扱う必要がありますが、7.0 SP2 よりも前のリリースでは未対応でした。</p>
プラットフォーム	すべて

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

回避策	この問題は、form-error-page (badlogin.jsp) に Authentication.logout() を追加することにより、Service Pack 2 で解決されています。この変更によって認証データはセッションからすべて削除され、ログインが認証エラーとして扱われま す。
CR060948	ユーザ管理で管理ユーザを削除しても、ポータル ツールに表示される。
問題	Portal Administration Tools の外部でユーザを削除すると、管理テーブルは更新され ません。
プラット フォーム	すべて
回避策	ユーザ管理ツールから管理ユーザを削除する前に、Portal Administration Tools を 使って管理ユーザを削除する必要があります。「 CR079253 」も参照してください。
CR067641	Webflow URL 作成タグのデフォルトの httpsInd 属性を変更する必要がある。
問題	Webflow URL 作成タグの httpsInd 属性が指定されていない場合は、デフォルト 値が使用されます。このデフォルト値の指定が必要になります。
プラット フォーム	すべて
回避策	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキスト エディタでポータル Web アプリケーションの web.xml ファイルを開 きます。 2. 以下のコンテキスト パラメータを追加します。 <pre><context-param> <param-name>HTTPSIND_DEFAULT_VALUE</param-name> <!-- 使用するデフォルト値。使用可能な値の 詳細については、Webflow URL 作成タグの ドキュメントを参照。 --> <param-value>CALCULATE</param-value> </context-param></pre>
CR076399	Web サービスが利用できない場合に例外が発生する。
問題	実行時に Web サービスが利用できない場合は、ポートレットから例外が送出され ます。

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

プラットフォーム	すべて
回避策	生成されたポートレットでこの例外をキャッチすることにより、.jsp ファイルに一種のエラー処理を追加します。「 CR079395 」も参照してください。
CR077546	ユーザ作成後にブラウザを更新するとエラーが発生し、そのユーザがすでに存在していることを伝えるメッセージが表示される。
問題	ポータルで新しいユーザを初めて作成し、ブラウザの更新をクリックしてページ上のデータを更新すると、ユーザ ログイン ページに戻り、ユーザがすでに存在することを伝えるメッセージが表示されます。これは、そのユーザを作成した URL がブラウザ内にまだ存在するために発生します。ブラウザを更新するとユーザの作成が再試行され、エラーが発生します。
プラットフォーム	すべて
回避策	Webflow がポータル Webflow の postProcessor に到達したらユーザをリダイレクトするように、 <code>com.bea.portal.appflow.processor.security.UserProcessor process()</code> メソッドでフラグを設定できます。ポータル Webflow を変更して、success イベントの送り先を postProcessor から新しい InputProcessor にする必要があります。InputProcessor は、リダイレクトのフラグの有無を検出します。 フラグが設定されていない場合、この InputProcessor は引き続きポータル プレゼンテーション ノードへの転送を行います。フラグが設定されている場合、InputProcessor は新しいリダイレクト プレゼンテーション ノードへの転送を行います。ここで、ユーザはコンテキスト ルートにリダイレクトされます。この回避策を実行する場合は、カスタマ サポートまでご連絡ください。

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

CR078988	起動時に「DocumentConnectionPool を発見できない」というメッセージが表示される。
問題	<p>サービス コンフィグレーション用の MBean が application-config.xml に存在するサーバであっても、サーバが対象になっていない場合は、以下のような例外が表示されます。weblogic.ejb20.WLDeploymentException:Unable to find DocumentConnectionPool 'default' configuration MBeanjavax.ejb.CreateException:Unable to find DocumentConnectionPool 'default' configuration MBean.</p> <p>application-config.xml でコンフィグレーションされていない DocumentConnectionPool を使用するように DocumentManager EJB がコンフィグレーションされている場合も、このエラーは発生します。</p>
プラットフォーム	すべて
回避策	<p>Console を使用して、アプリケーションのサービス コンフィグレーションの対象が正しく設定されており、DocumentConnectionPool MBean が正しい名前で存在していることを確認します。</p>
CR077981 および CR074989	WebLogic Portal で WebLogic Builder を使用するには、クラスパスを変更する必要がある。
問題	<p>WebLogic Portal の EJB に対してサーバグループの WebLogic Builder ツールを使用するには、クラスパスを追加する必要があります。</p>
プラットフォーム	すべて

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

回避策	<ol style="list-style-type: none"> 1. \server\bin\startWLBUILDER.cmd ファイルを編集用を開きます。 2. スクリプト内の JAVA_HOME が設定されている部分の後に以下の情報を追加します。 <pre>call %WL_HOME%\portal\bin\win32\set-environment.bat set P13N_EJB=%PORTAL_LIB%\p13n\ejb set PORTAL_EJB=%PORTAL_LIB%\portal\ejb set P13N_EJBS=%P13N_EJB%\document.jar;%P13N_EJB%\ejbadvisor.jar; %P13N_EJB%\events.jar;%P13N_EJB%\ldapprofile.jar;%P13N_EJB% \mail.jar;%P13N_EJB%\p13n_util.jar;%P13N_EJB%\pipeline.jar; %P13N_EJB%\placeholder.jar;%P13N_EJB%\property.jar;%P13N_EJB% \rules.jar;%P13N_EJB%\usermgmt.jar set PORTAL_EJBS=%PORTAL_LIB%\portal\ejb\portal.jar;%PORTAL_LIB% \portal\ejb\portal_util.jar set WLP_EJBS=%PORTAL_EJBS%;%P13N_EJBS%</pre>
CR079253	Service Pack 4 より前のリリースでは、システム全体から削除されたグループ管理者が管理者リストおよび管理者資格のあるユーザリストに引き続き表示される。
問題	委託管理機能が与えられているユーザをポータルユーザ管理でシステム全体から削除しても、管理者リストに引き続き表示されます。
プラットフォーム	すべて
回避策	この問題は、7.0 SP4 で解決されています。古いバージョンを使用している場合は、ポータルツールの Web アプリケーションに新しい choose_user.jsp および choose_user.properties ファイルをコピーします。これにより、ユーザ管理ツールの動作が変更されることはありません。引き続き、ユーザを任意に削除できます。委託された管理者を (ポータル管理ツールではなく) ユーザ管理ツールで削除する場合は、ポータル管理ツールで [管理者を削除] ボタンを使用して、そのユーザの委託された管理特権を「クリーンアップ」する必要があります。「 CR060948 」も参照してください。

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

CR079504	プロキシで Web アプリケーションに接頭辞を使用すると、相対リンクを含むプレースホルダが機能しない。
問題	キャンペーンで表示されるプレースホルダには相対リンクが使用されています。プロキシに接頭辞を設定すると、Web アプリケーションで生成される相対リンクが正しく表示されません。
プラットフォーム	すべて
回避策	この問題は、プロキシのサービス コンフィグレーションを変更することによって解決できます。たとえば、iPlanet プロキシの使用時には obj.conf ファイルを編集します。<Object name="default"> セクションを検索し、NameTrans エントリの下に以下のサービス メソッドを挿入します。 Service method="(GET HEAD POST PUT)" fn="wl_proxy" WebLogicCluster="myServer1:7501,myServer2:7539"
CR079638	Sampleportal で非推奨の security-principal-map タグが使用されている。
問題	sampleportal で使用されている BlackBoxNoTx JCA コネクタで、セキュリティ資格を格納するために非推奨の security-principal-map JCA デプロイメント記述子タグが利用されています。これにより、以下の警告が起動時に表示されます。 <m2Server> <main> <kernel identity> <> <190065> <Deprecated element security-principal-map used for BlackBoxNoTx - Application:BlackBoxNoTx, Module:BlackBoxNoTx, EIS Type:JDBC Database.> security-principal-map タグは、WebLogic Server の組み込み LDAP サーバへのセキュリティ資格情報の格納を優先して非推奨になりました。しかし、インストール時にこの情報をサンプルに渡す方法はありません。ユーザは、WebLogic Server Administration Console を使用して、セキュリティ資格をコンフィグレーションする必要があります。このような理由により、非推奨の要素を所定の場所にそのまま残すことになりました。
プラットフォーム	すべて

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

回避策	<p>警告メッセージが表示されないようにするには、以下の手順を実行して、セキュリティ資格を格納する組み込み LDAP をコンフィグレーションします。</p> <ol style="list-style-type: none">1. BlackBoxNoTx.rar で security-principal-map weblogic-ra.xml を削除します。2. サーバを起動します。3. BlackBoxNoTx.rar から生成されるエラーメッセージは無視します。4. WebLogic Server Administration Console に移動します。5. [デプロイメント コネクタ BlackBoxNoTx.rar] を選択します。6. [BlackBoxNoTx.rar] を右クリックします。7. メニューから [資格のマッピング] を選択します。8. DB ユーザ名とパスワードを使用して新しい資格マッピングを作成します (Remote UserCredMap、 Remote Password: User= DB ユーザ名)。9. BlackBoxNoTx.rar をもう一度右クリックし、メニューから [ロールのマッピング] を選択します。10. 新しいロール マッピングを作成します (WLSUser=weblogic_ra_default、 Remote User= DB ユーザ名)。11. 新しいロール マッピングを作成します (WLSUser=weblogic_ra_initial および Remote)。12. サーバを再起動します。
CR081979	Sybase 12.5 SWR 10235 が WLP 7.0 で機能しない。
問題	重複キー違反でデータ同期に失敗します。
プラットフォーム	すべて
回避策	Sybase 12.5 GA と 12.5.0.2/EBF 10573 のいずれにおいてもこの問題は確認されません。この問題は、SWR 10235 でのみ再現されます。したがって、WebLogic Portal 7.0 Service Pack 2 では SWR 10235 を使用しないでください。

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

CR082829	ショッピングカート内に大量の商品を入れると OutOfMemoryError が発生する。
問題	ショッピングカート内の商品が非常に多くなると、 <code>com.bea.commerce.ebusiness.price.service.internal.PriceServiceImpl</code> は <code>OutOfMemoryError</code> を送出します。この問題は、明細項目数と、特定の明細項目の商品アイテム数の両方に該当します。
プラットフォーム	すべて
回避策	<p>ショッピングカートと保留アイテムリストにおける明細項目と合計商品の最大数を制限します。Service Pack 4 より、WebLogic Commerce Server と e2e サンプルは、<code>ShoppingCartConstraints.java</code> クラスを追加するように変更されました。このクラスには、明細項目と合計商品の最大数を設定する定数が含まれます。</p> <p>以下の <code>PipelineComponent</code> クラスと <code>InputProcessor</code> クラスは、新しい制約を使用するよう変更されました。<code>AddProductItemToShoppingCartPC</code>、<code>MoveProductItemToSavedListPCImpl</code>、<code>MoveProductItemToShoppingCartPCImpl</code>、および <code>UpdateShoppingCartQuantitiesIP</code>。ソースコードは、WebLogic Commerce Server および e2e サンプルに組み込まれています。</p> <p>さらに、制約で定義された数を超えた場合に使用されるメッセージが <code>ebusiness-shoppingcart.properties</code> に追加されました。</p>
CR083219	Admin Tools でサブグループを検索すると、「グループが見つからない」というメッセージが返される。
問題	ユーザ管理では、サブグループを検索すると「グループが見つからない」という意味のメッセージが表示されます。
プラットフォーム	すべて
回避策	ありません。サブグループは、親グループを展開したときにだけ表示できます。

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

CR083497	wlcs サンプルで、顧客を削除して注文サービスを使用するとエラーが発生する場合があります。
問題	<p>顧客を削除すると、注文管理 JSP ツールの使用時に以下のエラーメッセージが表示される場合があります。</p> <pre>com.beasys.commerce.bridge.bmp.RowNotFoundException :Row not found for query /SELECT WLCS_CUSTOMER.BUSINESS_PHONE , WLCS_CUSTOMER.LAST_NAME , WLCS_CUSTOMER.EMAIL , WLCS_CUSTOMER.MIDDLE_NAME , WLCS_CUSTOMER.FAX , WLCS_CUSTOMER.TITLE , WLCS_CUSTOMER.CUSTOMER_TYPE , WLCS_CUSTOMER.SUFFIX , WLCS_CUSTOMER.HOME_PHONE , WLCS_CUSTOMER.FIRST_NAME FROM WLCS_CUSTOMER WHERE WLCS_CUSTOMER.CUSTOMER_ID = ?/ for class or Pk /com.beasys.commerce.ebusiness.customer.CustomerDelegateImpl/ with primary key /{2}/.</pre> <p>または、注文管理 JSP 管理ツールで、注文の顧客 ID が見つからなかったことを伝えるメッセージが表示されます。</p>
プラットフォーム	すべて
回避策	顧客を削除する場合は、その顧客の注文履歴をページまたはアーカイブする必要があります。これを行わないと、削除した顧客が含まれる注文にアクセスしたときに例外が発生します。
CR084158	サンプルの課税サービスと支払サービスで「localhost」がコンフィグレーションされる。
問題	<p>(クラスタ内などで) localhost を使用していないときに届け先住所やクレジットカード支払の [Use] ボタンをクリックすると、WebLogic Commerce Server サンプルアプリケーションでエラーが発生します。</p>
プラットフォーム	すべて
回避策	<p>WebLogic Server Console で、該当するマシン名またはクラスタ内のプロキシにリクエストがダイレクトされるように Tax Calculator WSDL と支払い Web サービス WSDL の WSDL 設定を変更します。この操作を行うには、Console で wlcsApp Web アプリケーションに移動し、サービス コンフィグレーションを選択します。</p>

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

CR085087	新しい Web サービス ポートレットでコンパイルエラーが発生する。
問題	<p>Portlet Wizard で新規に作成した Web サービス ポートレットに初めてアクセスすると、「シンボルを解決できない」などのコンパイルエラーが発生する場合があります。</p> <p>たとえば、次のようなエラーになります。</p> <pre>C:\bea\weblogic700\samples\portal\sampleportalDomain\sampleportalServer\wlnotdelete\sampleportal_sampleportal_1538809\jsp_servlet_portlets_test_45_ws_content.java:197:cannot resolve symbol symbol :class CATrafficService_Impl location:package sdl_CATrafficService sdl_CATrafficService.CATrafficService_Impl p_sdl_CATrafficService_CATrafficService_END Impl = new sdl_CATrafficService.CATrafficService_Impl(); //[/portlets/test-ws/content.jsp; Line: 9]</pre>
プラットフォーム	すべて
回避策	<p>サーバを再起動します。Web アプリケーションの WEB-INF\lib ディレクトリに格納された .jar ファイルはサーバを再起動するまで認識されないため、Portlet Wizard で生成された content.jsp や他の JSP が、Portlet Wizard で新しく作成された .jar ファイル内のクラスを参照している場合、これらの JSP でコンパイルエラーが発生する場合があります。</p>
CR088668	ポータルの再起動時に JSP が再コンパイルされる。
問題	<p>Administration Tools またはデータ同期 Web アプリケーションで JSP を変更すると、サーバの毎起動時に JSP が再コンパイルされる場合があります。</p>
プラットフォーム	すべて

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

回避策	ツールまたはデータ同期 Web アプリケーションで JSP ページを変更する場合は、WEB-INF/weblogic.xml デプロイメント記述子で workingDir jsp-param を設定し、サーバ再起動後の JSP ページの再コンパイルを回避する必要があります。たとえば、次のように設定します。 <pre><jsp-param> <param-name>workingDir</param-name> <param-value>./beaApps/p13nApp/datasync/WEB-INF/classes< /param-value> </jsp-param></pre>
CR088840	WLS コンソールによって新しいポータルアプリケーションを追加した後に、空の ServiceConfiguration が生成される。
問題	WLS コンソールによって新しいポータルアプリケーションをドメインに追加すると、META-INF ディレクトリに application-config.xml ファイルが存在している場合でも、新規に追加したアプリケーションに空の ServiceConfiguration が生成されます。
プラットフォーム	すべて
回避策	新規に追加したポータルアプリケーションで ServiceConfiguration を取得できるようにするには、以下の手順に従います。 <ol style="list-style-type: none">1. WLS コンソールでサーバをシャットダウンします。2. ドメインの config.xml ファイルを開きます。3. 新規に追加したポータルアプリケーションの「アプリケーション」要素を検索し、以下の文字列を追加します。<pre><ApplicationConfiguration Name="NEW_PORTAL_APP_NAME" Targets="PORTAL_SERVER" URI="PATH_TO_APPLICATION-CONFIGXML_FILE" /></pre>(子要素として追加)4. 変更した config.xml ファイルを保存します。5. サーバを再起動します。

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

CR088928	コンテンツ選択クエリの「IN」演算子の実装
問題	<p>7.0 SP4 より前のリリースでは、コンテンツ管理フレームワークでコンテンツ クエリに IN 比較演算子を使用することができませんでした。たとえば、次に示すようなコンテンツ セレクタは作成できませんでした。</p> <pre>CONTENT.author is in MYPROPERTYSET.myMultiValuedProperty.</pre>
プラットフォーム	すべて
回避策	<p>7.0 SP4 より前のリリースでは、以下に示すようなクエリはコンテンツ管理システムでサポートされていませんでした。 <code>CONTENT.author IN {'aa', 'bb', 'cc'}</code></p> <p>このフレームワークのデフォルトのコンフィグレーションでは、<code>CONTENT</code> プロパティをコレクションの最初のメンバーとのみ比較することにより、コレクションを伴うコンテンツ クエリが以下のように処理されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>CONTENT.author equals {'aa', 'bb', 'cc'}</code> becomes <code>CONTENT.author equals {'aa'}</code> <p>7.0 SP4 の拡張機能を使用すると、以下に示すように、コレクションに対する「equals」コンテンツ クエリを作成できます。このクエリは、「IN」クエリをシミュレートする「or」クエリです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>CONTENT.author equals {'aa', 'bb'}</code> becomes <code>(CONTENT.author equals 'aa') (CONTENT.author equals 'bb')</code> <p>この拡張機能を使用すると、以下に示すように、コレクションに対する「not equals」コンテンツ クエリも作成できます。このクエリは、「NOT IN」クエリをシミュレートする「and」クエリです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>CONTENT.author not equals {'aa', 'bb'}</code> becomes <code>(CONTENT.author not equals 'aa') && (CONTENT.author not equals 'bb')</code> <p>この拡張機能のデフォルトの動作は、元の動作です。これは、下位互換性のためです。この「or」メカニズムを用いた IN クエリのシミュレーションを可能にするには、<code>p13n_util.jar</code> の新しい <code>com/bea/p13n/content/content-query.properties</code> ファイルで <code>collectionContentQueriesAllowed=false</code> を設定し、拡張機能を有効にする必要があります。</p>

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

E-Business Control Center のパネルには、クエリ作成用の新しいチェックボックスがあります。チェックボックスのラベルは [Allow simulation of 'is in' comparison using 'is equal to] です。このボックスをチェックして、単一の値を持つプロパティを複数の値を持つプロパティと比較できるようにします。

サーバで変更を行わずにこのチェックボックスをチェックし、p13n_util.jar の新しい com/bea/p13n/content/content-query.properties ファイルで collectionContentQueriesAllowed=false を設定すると、単一の値を持つプロパティが複数の値を持つプロパティの値コレクションの最初のメンバーとのみ比較され、IN 比較演算子がシミュレートされます。

collectionContentQueriesAllowed=true を設定すると、前述のように「IN」クエリをシミュレートする「or」クエリが作成されます。

**CR093328 Portal 7.x で PointBase 4.2 を使用すると、
java.util.NoSuchElementException が検出される。**

問題 PointBase 4.2 では、V_ORPHAN_ITEM_ORDER の SQL が PointBase のバグのために機能しません。このバグは PointBase の以降のバージョンで修正されていますが、Portal 7.0 では Pointbase の以降のバージョンは使用されていません。このエラーは、カタログ内のカテゴリに属さない商品をブラウズしているときに発生します (java.util.NoSuchElementException)。

プラットフォーム Pointbase 4.2

回避策 カタログ内の新しい商品をカテゴリに割り当てるか、または別のサポート対象のデータベースに切り替えます。

注意： PointBase は、Pure Java のリレーショナルデータベース管理システムであり、サンプルコードを実行できるように WebLogic Platform に同梱されています。PointBase はアプリケーションの設計、開発、および検証のみをサポート対象としており、プロダクションサーバへのデプロイメントはサポートしていません。プロダクション環境で使用するには、特別な PointBase プロダクションライセンスを入手してください。

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

CR093644	「投資家」 サンプル ユーザ プロファイルにおける 「stockQuantities」 プロパティと 「stockSymbols」 プロパティの使い方。
問題	「投資家」 ユーザ プロファイルの 「stockQuantities」 プロパティと 「stockSymbols」 プロパティは制限のない複数テキスト値ですが、テキスト値の有効な書式がどのマニュアルでも説明されていません。無効な書式の値を指定すると、ポータル ページに実行時エラーが表示されます。
プラットフォーム	すべて
回避策	「stockQuantities」 プロパティでは、<StockSymbol>=<Quantity> (例 : BEAS=100) の書式で、名前と値のペアを単一の値として指定します。1 つずつ追加することで、このような名前と値のペアをプロパティ値として複数指定できます。「stockSymbol」 プロパティには、BEAS などの株式銘柄コードを指定します。1 つずつ追加することで、このような銘柄コードをプロパティ値として複数指定できます。これらの 2 つのプロパティは、「Portfolio」 ポートレットで使用されます。
CR095930	グループと同じ名前を持つユーザを作成すると、予期しない結果が生じる。
問題	ユーザ名とグループ名に同じ名前を使用すると、次の例外が発生する場合があります。com.bea.p13n.usermgmt.UserManagementException: "User <username> was not found".
プラットフォーム	すべて
回避策	同名のユーザ名とグループ名の作成を回避するには、次のシステム プロパティを起動スクリプトに追加します。 -D"com.bea.p13n.RestrictSameNameForUsrAndGroup=true" システム プロパティ 「com.bea.p13n.RestrictSameNameForUsrAndGroup」 が未定義の場合、デフォルトの動作は変更されません。この修正は、7.0 SP4 以降の互換性モードにのみ適用されます。

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

CR097934	ポータルで HTTPS 推定機能を使用すると、エラーが発生する可能性がある。
問題	<p>HTTPS 推定機能は、ポータル内の「createWebflowURL」(com.bea.portal.appflow.servlets.jsp.taglib.portlet.CreatePortletURLTag)、「form」(class com.bea.portal.appflow.servlets.jsp.taglib.portlet.PortletFormTag)、および「validatedForm」(class com.bea.portal.appflow.servlets.jsp.taglib.portlet.PortletValidatedFormTag) の各タグでは壊れています。</p> <p>これらのタグは、ユーザが指定した値ではなく、calculate ルーチンに内部イベントの値を渡します。これにより、多くの場合、HTTPS_URL_PATTERNS パラメータリストで必須の HTTPS として指定されているリソースへの正しいパスが推定アルゴリズムで検出されないこととなります。その結果、これらのタグのいずれかで httpsInd 属性として「calculate」が指定されていると、URL は常に http で開始されるようになります。</p>
プラットフォーム	すべて
回避策	<p>httpsInd を「HTTPS」に明示的に設定します。また、httpsInd 属性が明示的にデフォルトの動作に設定されていない場合は、HTTPSIND_DEFAULT_VALUE で特に指定がない限り、httpsInd 属性には calculate が使用され、結果は前述のとおりとなります。</p> <p>CR097934 の該当するパッチについては、カスタム サポートまでご連絡ください。</p>
CR098300	UUP プロパティ取得のために複数の LDAP サーバのコンフィギュレーションを可能にする LdapPropertyManager の拡張機能。
問題	<p>7.0 SP4 では、LDAP プロパティ取得のためのカスタム UUP をコンフィギュレーションして複数の LDAP サーバからプロパティを取得できる拡張機能が追加されました。この拡張機能では、こうした変更が不可欠です。当初リリースされたコードでは、LDAP サーバへのバインドに用いる DirContext を格納するために静的変数を使用していたからです。</p>
プラットフォーム	すべて

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

回避策	7.0 SP4 から、このソリューションで複数の <code>LdapProfileManager EJB</code> をデプロイできるようになりました。各デプロイメントは以下の点でのみ異なります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ デプロイメント記述子の <code>ejb-name</code> の値が異なる。 ■ <code>ejb-jar</code> デプロイメント記述子の <code>env-entry</code> の値が異なる。 ■ <code>weblogic-<i>ejb-jar</i></code> デプロイメント記述子の <code>jndi-name</code> の値が異なる。 <p>詳細については、<code>ldaprofile.jar</code> の <code>ejb-jar.xml</code> デプロイメント記述子を参照してください。</p>
CR098628	ポートレットの配置が失われることがある。
問題	管理者がページ上にポートレットを追加するか、またはポートレットの属性を変更すると (ポートレットを表示対象にするなど)、ユーザによって指定されたページ上のポートレットの配置が失われることがあります。
プラットフォーム	すべて
回避策	ポートレットの属性変更後、管理者は、編集済みのポートレットがあるページのポートレットの配置を管理ツールで保存する必要があります。
CR100741	行動追跡のための永続コードのカスタマイズ。
問題	行動追跡機能のデフォルトでは、イベント オブジェクトが XML として出力され、この XML はデータベースに対して永続性を持ちます。開発者がこのプロセスをさらに制御できるように、7.0 SP4 では、カスタム永続性メカニズムを実装する機能が追加されました。
プラットフォーム	すべて
回避策	開発者は、 <code>com.bea.pl3n.tracking.persistence.Persistor</code> インタフェースを実装して、エンタープライズ アプリケーション内 (EJB JAR ファイル内) にカスタム クラスをデプロイできます。

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

CR103242	CustomerPropertyManager が顧客エンティティ EJB を過度にロードする。
問題	CustomerPropertyManager は、顧客エンティティ EJB をロードする前に、暗黙的のプロパティの値「entityPropertyCache」をチェックしないため、過度のエンティティ EJB ロードが生じます。
プラットフォーム	すべて
回避策	<p>注意： 顧客エンティティ EJB の過度の使用を避けるために、7.0 SP4 では、CustomerPropertyManager Bean にキャッシュが追加されました。CustomerPropertyManager.getPropertyAsString() を直接使用することはお勧めしません。このメソッドを使用すると、暗黙的のプロパティのチェック時に顧客エンティティ EJB がロードされるからです。このメソッドの機能を取得する最良の方法は、ProfileWrapper または <um:getPropertyAsString> JSP タグを利用することです。このタグでは、今回のパッチで「entityPropertyCache」を使用するように変更された CustomerPropertyManager.getProperty(PropertyLocator loc, String pSetName, String pName) が使われています。</p> <p>CustomerPropertyManager (通常は ProfileWrapper または <um:getProfile> JSP タグによってアクセス) から明示的のプロパティを取得することはできません。CustomerValue オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、キャッシュするか、またはセッションで保持して顧客 EJB を繰り返しロードするのを防ぐことができます。</p> <p>注意： CustomerPropertyManager.getProperty(String customerName, String pSetName, String pName) を使用して暗黙的のプロパティを取得しないでください。このメソッドを使用すると、顧客エンティティ EJB がロードされます。代わりに、CustomerPropertyManager.getProperty(PropertyLocator loc, String pSetName, String pName) を使用します。このメソッドは、今回のパッチによって「entityPropertyCache」を使用するように変更されています。ProfileWrapper および <um:getProperty> タグを使用して、適切なメソッドにアクセスします。</p>

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

CR103950	データ同期エラー
問題	<p>データ同期に失敗して次のエラー メッセージが表示されることがあります。</p> <pre>The data sync client (running Windows) reports: java.net.SocketException:socket write error (code=10055) The server reports a com.bea.pl3n.management.data.message.XmlMarshalException caused by something like: org.xml.sax.SAXParseException: The element type "description" must be terminated by the matching end-tag "</description>"</pre>
プラットフォーム	Windows
回避策	データ同期を再試行します。マシンの再起動が必要になることがあります。
CR105276	JVM 内の ContentCache をすべてクリアする API の提供。
問題	<p>コンテンツ JSP タグでは、CM システムで使用される p13n.Cache メカニズムの他に、ContentCache メカニズムを使用してキャッシングを実行します。</p> <p>現在のところ、サーバの稼働中にセッション スコープまたはアプリケーション スコープの ContentCache をクリアする方法はありません。24 時間体制のオペレーションにおいて、CM システムはたまにしか更新されないため、コンテンツ JSP タグはセッション スコープまたはアプリケーション スコープの ContentCache を使用して、古くなったコンテンツを配信し続けます。</p>
プラットフォーム	すべて

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

回避策	<p>7.0 SP4 では、コンテンツ キャッシュの更新を指示するために、<code>com.bea.p13n.content.ContentCache</code> クラスに新しい <code>API flush()</code> が導入されています。パフォーマンスへの影響を最小限にするために、このソリューションでは、レイジー バインディングによってコンテンツ キャッシュのフラッシュが次のアクセスまで延期されます。</p> <p>新しい API は、セッション スコープおよびアプリケーション スコープのコンテンツ キャッシュにのみ適用されます。ページ スコープおよびリクエスト スコープのキャッシュは、各ページまたはリクエストが終了すると自動的に期限切れになります。</p> <p>セッション レプリケーションを使用するクラスタ環境では、デプロイされている管理対象ノードおよび JVM ごとにこの API を呼び出して、セッション スコープのコンテンツ キャッシュをすべてクリアする必要があります。</p>
CR106539	WebLogic Commerce Server サンプル ドメインと PointBase バージョン 42ECF183 を併用した場合に断続的に発生する障害。
問題	<p>PointBase バージョン 42ECF183 には、ポータル アプリケーション サービス リクエスト時に、明らかなハングおよびセッション タイムアウトを引き起こすおそれがある障害がいくつかあります。さらに、このバージョンの PointBase は、データ同期中に PointBase 内部エラーを引き起こす場合があります。</p>
プラットフォーム	PointBase バージョン 42ECF183
回避策	<p>Portal 7.0 では、このバージョンの PointBase を使用しないことをお勧めします。</p> <p>注意： PointBase は、Pure Java のリレーショナル データベース管理システムであり、サンプル コードを実行できるように WebLogic Platform に同梱されています。PointBase はアプリケーションの設計、開発、および検証のみをサポート対象としており、プロダクション サーバへのデプロイメントはサポートしていません。プロダクション環境で使用するには、特別な PointBase プロダクション ライセンスを入手してください。</p>
CR109615	java.lang.StackOverflowError を引き起こす再帰の問題が Webflow で発生するおそれがある。
問題	<p>SP4 のリリースで、ポートレットの Webflow がネームスペースを認識できるようになったことにより、既存の Webflow、特に 7.0 SP4 より前の WLP サンプルに基づく Webflow で再帰の問題が発生するおそれがあります。詳細については、「CR109615 に関する補足情報」 を参照してください。</p>

表 3 ポータル開発および管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

プラットフォーム	すべて
回避策	一般的には、ポータル ネームスペースへのパスが設定されたポートレット Webflow の使用を避けます。少なくとも、7.0 SP4 より前のサンプルに基づくポータルおよびポートレットのすべての Webflow が、それぞれのエラー ノード (<code>\framework\error\error.jsp</code> を使用) を持つように更新します。これにより、ポートレットの Webflow がポータル ネームスペースになることを避けられます。再帰が発生するその他のケースでも、この情報に基づいて Webflow を確認してください。

CR109615 に関する補足情報

SP4 のリリースで、ポートレットの Webflow がネームスペースを認識できるようになったことにより、既存の Webflow、特に SP4 より前の WLP サンプルに基づく Webflow で再帰の問題が発生するおそれがあります。この問題は例によって十分に説明されていますが、さまざまな理由により Webflow に影響を与える場合があります。

新しいポータル Web アプリケーションの作成時に取得する標準のポータル Webflow には、たとえばワイルドカード表示更新イベント (`bea.portal.framework.internal.refresh`) が含まれています。このイベントは `preProcessor` (`com.bea.portal.appflow.processor.PreProcessor`) に転送され、そこから `postProcessor` コンポーネント (`com.bea.portal.appflow.processor.PostProcessor`) に渡されます。イベントのタイプに関係なく、`postProcessor` はポータル内の全ポートレットの更新を試みます。

7.0 SP2 の e2e サンプルの b2c アプリケーションでは、カタログ ポートレット Webflow、特に `addItemToShoppingCart` Pipeline コンポーネントの処理中にエラーが起きると問題が発生します。Pipeline コンポーネントが `PipelineException` を送出すると、`catalogportlet` Webflow は、ポータル ネームスペース内のエラー プレゼンテーション ノード (`error.jsp`) のプロキシであるプロキシ ノード `portal_error` に転送され、標準の Webflow エラー ページが表示されます。この Webflow の他のエラーもすべて同じ方法で転送されます。

ユーザがポータルの [Products] タブ (URL - http://localhost:7501/b2cPortal/application?origin=hnav_bar.jsp&event=bea.portal.framework.internal.refresh&pageid=Products) を再度クリックしようとする、ポ

タルの表示更新イベント (`bea.portal.framework.internal.refresh`) がトリガされ、最終的に `postProcessor` はすべてのポートレットの更新を試みるようになります。

`catalogportlet` が更新されても (`bea.portal.framework.internal.refresh`)、その Webflow `catalogportlet` では前述のエラーの状態が保持されます。つまり、`catalogportlet` はポータル ネームスペースの `error.jsp` にあります。Webflow エグゼキュータは、ポータル エラー ノードに固有の表示更新イベントを認識しないため、フォールバックを行ってワイルドカードを使用します。その結果、`postProcessor` に戻ることであり、スタックのオーバーフローが発生するまでポートレットの更新が繰り返されます。

`catalogportlet` Webflow への別のエントリ ポイントを見つけることにより、問題を回避できる場合もあります。たとえば、`e2e` アプリケーションで [My Avitek] ページの下部にはカタログに戻る商品リンクが設定されており、`catalogportlet` Webflow を使用可能な状態に戻すことができます。

この問題を解決する最良の方法は、各 Webflow でエラー ページを変更することです。ポータル ネームスペースにフローを転送してそのエラー ノードを使用するのではなく、それぞれのポートレット ネームスペースにエラー プレゼンテーション ノードを作成し、同一の `error.jsp` を使用します。これにより、ポートレット自身の更新パスを使用して各ポートレットを回復できます。一般に、ポートレット Webflow をポータル Webflow に転送することは必ずしも得策ではありません。これを実行する場合は、何らかの復帰の手段を内部的に講じる必要があります。SP4 に付属しているサンプルは、このように更新されています。

Webflow でネームスペースが変更されない `lastContentUrl` ノードのような一部の例外もあります。これは、このノードがポートレットの最後の状態に戻す機能を備えているからです。さらに、一連の Webflow を作成することも考えられます。その際、ポートレット Webflow をポータル フローに正常に転送し、最終的には元に戻しますが、これには十分な注意が必要です。また、特別なプロセッサを少なくとも 1 つ以上作成する必要があります。このプロセッサには、前述のようなルーティングを受け入れ、元のネームスペースへのフローの復帰を処理するための機能を用意しなければなりません。

`e2e` の `b2c` アプリケーションのログイン プロセスは、クロス Webflow ネームスペースがいかに有用なもので、ときには必須のものであるかを示しています。このプロセスは、`security.wf` で始まる 3 つの Webflow に関連しています。正常にログインすると、Webflow は `user_account.wf` に転送され、最終的にはポータルが表示されるポータル ネームスペースになります。この場合、ログイン プロセ

スは基本的にポータルページへの一方向パスなので、このパスは意味を成しません。さらに、[ログアウト]ボタンを押してこの Webflow に戻ることもできません。

スタックのオーバーフローを引き起こす Webflow とログイン Webflow を区別するもうひとつの特徴は、ログイン Webflow は特定のポートレットに関連付けられていないことです。この特徴と、更新メカニズムを理解することが、再帰の問題を回避するための重要なポイントです。再起の問題は、ポートレットの Webflow が最終的にポータルネームスペースになり、戻り方法がないときに発生することに留意してください。ポータルの表示更新イベントが発生するとポートレットは更新されますが、ポートレットの Webflow はポータルネームスペースにあるため、Webflow は、ポートレットを更新する試みへと戻りポータルの更新パスをたどります。これが再帰ループです。

ブラウザに関する問題

この節では、ブラウザの問題に関する確認済みの制限事項と回避策について説明します。

表 4 ブラウザに関する確認済みの制限事項と回避策

CR035576	ブラウザでクッキーを受け付けなければならない。
問題	Administration Tools を使用する場合は、ブラウザでクッキーを受け付けなければならないかもしれません。
プラットフォーム	すべて
回避策	クッキーを受け付けるようにブラウザのオプションを設定してください。
CR040263	ブラウザのキャッシュを自動的に設定すると、Portal Administration Tools で異常な動作が発生する。
問題	キャッシュの設定が [確認しない] または [自動的に確認する] に指定されていると、そのセッションで 2 回目のリクエスト送信時に、キャッシュに格納されているページが返されることがあります。
プラットフォーム	すべて

表 4 ブラウザに関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

回避策	<p>Administration Tools を使用するとき、ブラウザのキャッシュの設定を、Microsoft Internet Explorer の場合は [ページを表示することに確認する] に、Netscape の場合は [毎回] にそれぞれ設定する必要があります。</p> <p>Netscape ブラウザの場合、キャッシュのチェックを無効にするオプションは、ポータルフレームワークでは動作しません。情報が失われます。Netscape ブラウザのこのオプションは、[編集 設定 詳細 キャッシュ] をクリックし、[キャッシュしたドキュメントとネットワーク上のドキュメントとの比較] で確認できます。Netscape を使うときは、[毎回] オプションを指定します。</p> <p>Internet Explorer ブラウザの場合、キャッシュのチェックを無効にするオプションは、ポータルフレームワークでは正しく動作しません。Internet Explorer ブラウザのこのオプションは、[ツール インターネット オプション 全般 インターネット一時ファイル 設定] をクリックし、[保存しているページの新しいバージョンの確認] で確認できます。Internet Explorer を使うときは、[ページを表示することに確認する] オプションを指定します。</p>
CR044871	クッキーを有効にした Netscape でコマース テンプレートが正しく動作するには、weblogic.xml で CookieDomain を設定する必要がある。
問題	<p>Netscape ブラウザを使用している場合、HTTP から HTTPS に切り替えるとセッションクッキーが失われます。これは、Netscape では HTTPS ポートへの切り替えが別のサーバへの切り替えとして認識されるためです。Microsoft Internet Explorer ではこの問題は発生しません。詳細については、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/servlet/progtasks.html#141632 を参照してください。</p>
プラットフォーム	すべて、Netscape 4.5 以降を使用した場合

表 4 ブラウザに関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

回避策	<p>WebLogic Commerce Server の Web アプリケーションの weblogic.xml に、セッションパラメータが追加されました。この weblogic.xml ファイルは、<code>PORTAL_HOME\applications\wlcsApp\wlcs\WEB-INF</code> ディレクトリにあります。</p> <pre><session-param> <param-name>CookieDomain</param-name> <param-value>.mycompany.com</param-value> </session-param></pre> <p>Netscape で WebLogic Commerce Server の Web アプリケーションを使用する前に、これらのタグのコメントを解除し、weblogic.xml の CookieDomain パラメータの値を mycompany.com から実際のドメイン名に変更してください。</p> <p>CookieDomain を設定する場合は、サーバに対するリクエストの URL でこの値を使用する必要があります。たとえば、<code>http://mymachine:7501</code> ではなく <code>http://mymachine.mycompany.com:7501</code> を使用します。このようにしないと、セッションが失われる場合があります。</p>
CR076455	Netscape では、Administration Tools で属性の設定を保存すると、間違っ たポータルページに戻る。
問題	Netscape のキャッシュの問題により、Administration Tools でポータルページを保存したときにページが更新されない場合があります。
プラットフォーム	Netscape 4.x
回避策	<p>Netscape のキャッシュに関する問題を解決するには</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Netscape で、[編集 設定 詳細 キャッシュ] を選択します。 2. [メモリ キャッシュ] フィールドと [ディスク キャッシュ] フィールドを 0 に設定します。
CR076801	6.2.3 より前のバージョンの Netscape を使用すると、ログインの際に問題が 発生する。
問題	正常にログインできたように見えても、以降の画面の動作が異なります。たとえば、再びログインを求められたり、ログインのリンクが表示されたままになっていたりします。
プラットフォーム	Netscape

表 4 ブラウザに関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

回避策	Netscape 6.2.3 以上をインストールするか 6.2.3 にアップグレードし、Web アプリケーションの weblogic.xml ファイルで CookieDomain セッションパラメータのコメントを解除します。Netscape の旧バージョン (4.7x) を使用する必要がある場合は、weblogic.xml ファイルの CookiePath パラメータのコメントも解除する必要があります。
-----	---

システム管理に関する問題

この節では、一般的なシステム管理の問題に関する確認済みの制限事項と回避策について説明します。以下の表に加えて、詳細については後の節も参照してください。

表 5 システム管理に関する確認済みの制限事項と回避策

CR058782	T3 クライアントを使うと、ログインしなくてもデータベースに接続できる。
問題	WebLogic Portal サンプルアプリケーションのデフォルトでは、guest ユーザが有効になっています。そのため、T3 クライアントはログインしないでデータベースにアクセスできます。 ドメインの config.xml ファイルで GuestDisabled=true を設定して guest ユーザを無効にしようとすると、WebLogic Portal で例外が発生します。
プラットフォーム	すべて
回避策	この問題には、2 つの回避策があります。 <ul style="list-style-type: none">◆ 接続フィルタを作成する。◆ 標準のネットワークセキュリティ手段を使ってサーバを保護する。たとえば、ファイアウォールを作成して保持できます。
CR060432	WebLogic Server Administration Console を使って、RDBMSRealm 代理プールのサイズをコンフィグレーションできない。
問題	RDBMSRealm は、代理プールのサイズを MBean から読み取りません。
プラットフォーム	すべて

表 5 システム管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

回避策	p13n_system.jar に com/bea/p13n/security/realm/realm.properties を格納し、次のプロパティを指定します。delegatePool.size=5 このプロパティを追加すると、プールサイズを変更できます。
CR060470	ルールエンジンの ContextPoolFactory に対する容量設定について、マニュアルに記述されていない。
問題	資格エンジンは能力に基づく認証システムで、RoleMapping と AccessDecision という2つの主要な機能で構成されています。どちらの機能もルールエンジンを使用します。ContextPoolFactory の部分は、管理対象のコンテキスト プール インスタンスの容量を設定する容量パラメータを使用します。このパラメータのデフォルト値は 16 で、これは WebLogic Server の実行スレッドのデフォルト数に近い値です。容量パラメータのデフォルト値を変更してさらに大きな値を設定すると、資格エンジンのパフォーマンスが出荷時の設定より低下する場合があります。
プラットフォーム	すべて
回避策	容量パラメータを変更する場合は、p13n_util.jar のルートにある entitlements-access-decision.properties ファイルを変更する必要があります。このパラメータには、Weblogic.system.executeThreadCount に近いまたは等しい値を設定する必要があります。
CR062413	ユーザに対する「ldap」プロパティセットを検索すると、「ProfileSystemException: The default entity property manager was not found at the ejb-ref java:comp/env/ejb/LdapPropertyManager」が発生する。
問題	この問題は、ldaprofile.jar の LdapPropertyManager UUP をデプロイしないで、「ldap」という名前のプロパティセット(ユーザプロファイル)を E-Business Control Center で作成した場合にのみ発生します。usermgmt.jar の UserProfileManager は、LdapPropertyManager UUP を「ldap」プロパティセットにマップするように設定された ejb-jar.xml デプロイメント記述子に付属しています。これは、LDAP UUP を設定するコンフィギュレーションを簡単にするためです。
プラットフォーム	すべて

表 5 システム管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

回避策	LdapPropertyManager を使用して「ldap」プロパティを検索する場合は、忘れずに ldaprofile.jar EJB JAR をデプロイします。マニュアルの手順に従ってこのデプロイを行います。一方、デフォルトのポータルスキーマから「ldap」プロパティを検索する場合は、usermgmt.jar の UserProfileManager に対する ejb-jar.xml 記述子で設定されている「ldap」プロパティへのマッピングを削除します。
CR065592	WebLogic Server LDAP レルム V1 レルムからのプロパティの検索に関して問題がある。
問題	LDAP レルム V1 のプロパティの検索に関して問題があります。ドメインの config.xml ファイルでは、ユーザとグループの識別名 (DN) がルートからリーフの順になっている必要がありますが (o=company.com,ou=People)、これは ldaprofile.jar デプロイメント記述子ファイルで求められる LDAP のリーフからルートという正しい規則 (ou=People,o=company.com) の逆であるためです。
プラットフォーム	すべて
回避策	LDAP V1 の場合は、以下のファイルでは、userDN と groupDN の値に対して次の順序を使用してください。 <ul style="list-style-type: none">■ config.xml ファイル: o=company.com,ou=People■ ldaprofile.jar の ejb-jar.xml ファイル: ou=People,o=company.com 注意: この問題は、WebLogic Server LDAP V2 レルムでは解決されています。config.xml ファイルにおいても、正しいリーフからルートの順序規則が要求されるようになっています。
CR072965	Sybase ASE : クライアントとサーバで文字セットが異なるときのデータ取得の問題。
問題	Sybase では、複数の TEXT タイプフィールドが DDL で定義されています。クライアントとサーバの文字セットが異なっていて、サーバからクライアントへの文字セットの変換でデータサイズが変化する場合は、データを取得する際に問題が発生します。
プラットフォーム	NT

表 5 システム管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

回避策	次のいずれかの方法を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 文字セットの変換をオフにして、テキスト データの変換をクライアント サイドで行う。文字セットの変換は、完全にオフにすることも、テキスト フィールドの SELECT だけをオフにすることもできます。 ◆ サーバと同じ文字セットを使用するクライアントから、データにアクセスする。Unicode 対応のサーバでは、文字セットとして Unicode を使用するクライアントを使うことになります。
CR074989、 CR077981	WebLogic Builder が WebLogic Portal モジュールのロードに失敗する。
問題	WebLogic Builder で開く EJB JAR は、スタンドアロンで使用するものと想定されています。WebLogic Portal に含まれる JAR ファイルは、スタンドアロンでは使用できません。また、お使いの JAR ファイルもスタンドアロンでは使用できない可能性があります。WebLogic Portal では、JAR ファイルがシステム クラスパスに存在している必要があり、JAR のクラスパス マニフェスト エントリを使って EJB JAR から他の JAR をインクルードします。
プラットフォーム	すべて
回避策	WebLogic Builder の起動に使用するスクリプトを変更し、必要な JAR をシステム クラスパスに追加します。この変更によって、WebLogic Builder は、WebLogic Portal に付属する JAR ファイルを開くようになります。
CR075712	プレースホルダ サービスが、データベース レルムのバウンスで <code>HeuristicMixedException</code> を送出する。
問題	RDBMS レルムの接続が失われた場合、またはデータベースでバウンスがある場合、プレースホルダ サービスは <code>javax.transaction.HeuristicMixedException</code> エラーを生成します。
プラットフォーム	すべて
回避策	プロダクション環境でこのエラーが発生することはほとんどありません。接続プールで <code>TestConnectionsOnReserve</code> パラメータの設定を <code>true</code> にリセットしてください。プールから接続を配布する前の接続テストでは、パフォーマンスが多少低下します。

表 5 システム管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

CR075729、 CR075730	Console で作成した新しいサービスが、管理対象サーバで登録されない。
問題	Console で新しいサービスを作成すると (新しいキャッシュの作成など)、管理サーバの Config インスタンスは作成されますが、管理対象サーバでは作成されません。アプリケーションを再デプロイしても問題は解決しません。
プラットフォーム	すべて
回避策	J2EEListener がコンフィグレーションされた新しい weblogic-application.xml ファイルをアプリケーションで使用する必要があります。
CR077070	AIX 4.3.3-DB2 7.2 Native/Stockportal では、ユーザの作成に関して問題がある (7.0、7.0 SP1、7.0 SP2 のみ)。
問題	JDK 1.3.1 に付属する IBM JAAS ファイルでは、さまざまな例外が発生します。
プラットフォーム	AIX
回避策	<p>JDK 1.3.1 に付属する IBM JAAS ファイルを削除してください。</p> <p>ファイルを削除するには</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次のディレクトリに移動します。BEA_HOME/jdk131/jre/lib/ext 2. jaas.jar ファイルと jaas_lm.jar ファイルを削除します。 <p>警告： ファイルの名前を変更することはできません。ファイルを削除するか、別の場所に移動する必要があります。</p>
CR079132	データベースを切り替えた後、最初はサービスとしてのインストールが機能しない。
問題	PointBase から他のデータベース (MSSQL、Oracle、DB2、Sybase) に切り替えて、サービスとしてのインストールが完了した後では、鍵が作成されないため (鍵が存在しない場合も含む)、サービスは正常に開始しません。具体的には、クレジットカードの暗号化 / 復号化用に新しい鍵の作成を求めるプロンプトが表示されます。
プラットフォーム	すべて
回避策	サービスとして実行する前にサーバを 1 回実行し、データベースのテーブルを設定します。

表 5 システム管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

CR079981	クッキー名が設定されていない場合、iplanet fast track 4.1 プロキシに障害が発生する。
問題	ポータル の weblogic.xml ファイル からセッション記述子 CookieName を削除すると、デフォルト値 JSESSIONID が強制的に使用されます。デフォルトのクッキー名を使用すると、iPlanet FastTrack 4.1 の httpd.exe が終了する場合があります。
プラットフォーム	すべて
回避策	weblogic.xml ファイル からセッション記述子の CookieName パラメータを削除しないでください。
CR079368	WebLogic Portal 7.0 における LDAP V2 レルムのサポート
問題	WebLogic Portal 7.0 のサイトで CustomRealm を実装する場合は、これまで WebLogic Server 6.1 の config.xml ファイルで提供されていたサンプルの CustomRealm の定義が必要です。WebLogic Portal は、WebLogic 7.0 の Compatibility Security モジュールを使用します。
プラットフォーム	すべて
回避策	config.xml ファイルで CustomRealm を使用します。 http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wlp/docs70/dev/securty.htm#1001331 を参照してください。
CR080305	PointBase で新しいカタログ カテゴリを作成できない。
問題	PointBase を使用する WebLogic Commerce Server ドメインでは、カテゴリの作成が機能しません。
プラットフォーム	PointBase
回避策	この問題は PointBase のバグが原因で発生します。WebLogic Portal に付属している PointBase データベースは評価版であり、開発やプロダクション環境での使用を想定していません。PointBase から別のサポート対象データベースに切り替えることをお勧めします。なお、お送りいただく電子メールには、WebLogic Portal 7.0 Service Pack 4 のマニュアルをお使いであることを明記してください。

表 5 システム管理に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

CR083045	Thin ドライバを使用する Oracle 8.1.7 では、高負荷時に OutOfMemoryError が発生する。
問題	Oracle 8.1.7 対応の Thin ドライバを使用した場合、負荷がかかると <code>java.lang.OutOfMemoryError</code> 例外と <code>weblogic.transaction.internal.TimedOutException</code> 例外のいずれかまたは両方が発生します。
プラットフォーム	すべての OS、Oracle 8.1.7 Thin ドライバ
回避策	新しいバージョンの Thin ドライバを入手するには、最新バージョンの Oracle 8.1.7 をダウンロードしてインストールしてください。7.0 SP4 以降を使用している場合は、BEA WebLogic Platform SP4 にバンドルされている Thin ドライバを使用してください。
CR086602	ポータルの委託管理に関連付けられているグループの名前 (「SystemAdministrator」、 「DelegatedAdministrator」、 「AdminEligible」) を変更するには、特別な手順を実行しなければならない。
問題	Service Pack 2 では、委託管理のグループ名として、定数値ではなくデプロイメント記述子 (<env-entry>) の情報を使用するように DelegatedAdminManager EJB が変更されました。AdminResourceManager EJB と VisitorUserManager EJB、および DelegatedAdminManager タグライブラリの 2 つの JSP タグクラスは、新しい DelegatedAdminManager を利用するように変更されました。
プラットフォーム	すべて
回避策	Service Pack 2 で加えられた変更を利用して、委託管理に対するグループ名の変更を可能にするには、「SystemAdministrator」グループと「DelegatedAdministrator」グループを含む EJB と Web アプリケーションのデプロイメント記述子におけるセキュリティロールマッピングをすべて変更する必要があります。詳細な回避策については、後述の「 CR086602 の回避策 」を参照してください。

CR086602 の回避策

この回避策は、アプリケーションだけでなくドメインのウィザードテンプレートでも行う必要があります。製品のインストールディレクトリ全体を検索すれば、EJB JAR ファイルが見つかります。

ロール マッピングの変更に加えて、`usermgmt.jar` に含まれる `UserManager` EJB デプロイメント記述子 (`META-INF/ejb-jar.xml`) の `ProtectedGroupNames` のリストも更新する必要があります。

EJB に対するロール マッピングを変更するには、EJB JAR から `META-INF/weblogic-ejb-jar.xml` を抽出し、セキュリティ ロール マッピングのグループ名を編集して、新しい `META-INF/weblogic-ejb-jar.xml` で EJB JAR を更新する必要があります。作業ディレクトリが深くネストしている場合は、「`jar uvf campaign.jar META-INF/weblogic-ejb-jar.xml`」などのコマンドの使用に十分注意してください。作業ディレクトリへのパスが長すぎると、`jar` コマンドで処理できない場合があります。その場合は、ルート ディレクトリに近いディレクトリに JAR ファイルをコピーして更新し、更新後の JAR を J2EE アプリケーション ディレクトリに戻してください。

Web アプリケーションに対するロール マッピングを変更するには、`WEB-INF/weblogic.xml` の `security-role-assignments` を更新する必要があります。

たとえば、次に示すのは、7.0 Service Pack 1 の `sampleportal` の J2EE アプリケーションに対する EJB JAR のうち、更新を必要とするロール マッピングを含むものの一覧です。

- `campaign.jar`
- `catalogws.jar`
- `customer.jar`
- `ebusiness.jar`
- `ldaprofile.jar`
- `mail.jar`
- `placeholder.jar`
- `portal.jar`
- `rules.jar`
- `usermgmt.jar`

`META-INF/ejb-jar.xml`: `usermgmt.jar` の `ProtectedGroupNames` の `env-entry` を忘れずに変更してください。

たとえば、7.0 SP1 の `sampleportal` の J2EE アプリケーションに対する Web アプリケーションのうち、更新を必要とするロール マッピングを含むものには、`datasync`、`tools`、`toolSupport` などがあります。委託されたポータル管理者がす

に存在する既存のインストール環境では、これらのロール マッピングを変更しないでください。最初に、WebLogic Server システム管理者またはポータル システム管理者としてポータル JSP 管理ツールにログインし、すべてのポータル管理者とグループ管理者を削除します。

新しいグループ名マッピングを受け入れるようにサーバを再コンフィギュレーションした後は、ポータル JSP 管理ツールを使用してすべてのポータル管理者とグループ管理者を作成できます。

インターナショナルライゼーションに関する問題

この節では、インターナショナルライゼーションの問題に関する確認済みの制限事項と回避策について説明します。

CR070746	メインの国際化バンドルが存在しない場合、WebLogic Portal は共通の国際化バンドルを取得しない。
問題	英語以外のローカライズの場合、たとえば <code><file_name>.jsp</code> という名前の JSP があり、 <code><custom_bundle>_<language_type>.properties</code> という名前のカスタム リソースバンドルを使用する場合は (<code>il8n:getMessage</code> タグの <code>bundleName</code> 属性を使用)、 <code><file_name>.jsp</code> と同じディレクトリ内に、対応する <code><file_name>_<language_type>.properties</code> ファイルが存在しなければなりません。このファイルがないと、 <code>getMessage</code> タグは <code><custom_bundle>_<language_type>.properties</code> のリソースを認識できません。
プラットフォーム	すべて
回避策	JSP のディレクトリに、サポート対象言語ごとに 1 つのデフォルト リソースバンドルを必ず格納します。たとえば、フランス語ロケールをサポートする場合、 <code>/store/shopping_cart.jsp</code> というページに対しては、 <code>/store/shopping_cart_fr.properties</code> という名前のファイルが必要です。英語のみのページに対して、この回避策を使用する必要はありません。

CR083635	マルチバイト文字セットのデータを使用すると、税金サービスが CharConversionException を送出する。
問題	WebLogic Commerce Server のサンプル アプリケーションでは、配送先住所にマルチバイト文字セットが使用されていると、税金サービスが次の例外を送出します。 "CharConversionException: Illegal ASCII character."
プラットフォーム	すべて
回避策	税金サービスで UTF-8 文字を使用する場合は、 weblogic.webservice.i18n.charset システム プロパティを「utf-8」に設定します。そのためには、起動スクリプトを変更して次のシステム プロパティを追加します。 -Dweblogic.webservice.i18n.charset="utf-8"
CR084957	マルチバイト文字を含む外部コンテンツが、es:uriContentes タグで正しく表示されない場合がある。
問題	指定された URI の HTTP 応答で HTTP CONTENT-TYPE ヘッダーに「charset」属性が含まれていない場合は、es:uriContent によるマルチバイト文字の表示が乱れます。
プラットフォーム	すべて

<p>回避策</p>	<p>es:uriContent タグが取得したコンテンツに対して使用する文字コード化方式を決定できるように、新しいオプションのタグ属性「charset」が 7.0 SP2 で導入されました。「charset」属性の値は、外部コンテンツの文字コード化方式と互換性のある有効な MIME 文字セット名でなければなりません。es:uriContent タグは、使用する文字コード化方式を以下の順序で決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ コンテンツの HTTP CONTENT-TYPE ヘッダーに「charset」属性が含まれている場合は、オプションの「charset」タグ属性の有無に関係なく「charset」属性を使用する。 ■ HTTP CONTENT-TYPE ヘッダーに「charset」属性が含まれていない場合は、タグで指定されている「charset」を使用する。 <p>注意： es:uriContent タグは、文字セットを決定するためにコンテンツの META タグをそれ以上検索しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ HTTP CONTENT-TYPE ヘッダーに「charset」属性が含まれず、タグで「charset」属性が指定されていない場合は、i18n:localize タグによって決定されたものと同じ文字セットを使用する。
<p>CR111421</p>	<p>訪問者ツールの「表示対象ポートレット」セクションのポートレット名をローカライズできない。</p>
<p>問題</p>	<p>訪問者ツールの「表示対象ポートレット」セクションのポートレット名は、インターナショナル化されません。</p>
<p>プラットフォーム</p>	<p>すべて</p>
<p>回避策</p>	<p>7.0 SP4 では、「render」タグで PropertyResourceBundle からローカライズされたポートレット名を取得するために、select_properties.jsp の template.jsp の使用時に、さらにリクエストパラメータ "BUNDLE_NAME" を以下のように追加する必要があります。</p> <pre><jsp:include page="<%= url %>" > <jsp:param name="BUNDLE_NAME" value="/framework/tools/select_portlets" /> </jsp:include></pre> <p>"BUNDLE_NAME" の値は、キーとしてのポートレット表示名を含む基本プロパティファイル名です。</p> <p>指定されたプロパティファイルでポートレット表示名のキーが見つからない場合は、元の英語表示名が表示されます。</p>

この回避策は、訪問者ツールの「表示対象ポートレット」セクションにのみ適用されます。「表示対象ポートレット」セクションのインターナショナルライズされたポートレット名では、`select_portlets.jsp` の「`pps.getDisplayName()`」のインスタンスだけを `<i18n:message>` タグで囲みます。

指定されたメッセージ名がメッセージバンドルで見つからない場合、`getMessage` タグは JSP 例外を送出し、修正された表示タグはインターナショナルライズされていないポートレット表示名を単に返すため、`<18:message>` タグを手動で追加する必要があります。

移行に関する問題

この節では、WebLogic Portal の旧バージョンから 7.0 への移行に関する確認済みの制限事項とその回避策について説明します。

表 6 移行に関する確認済みの制限事項と回避策

CR078184	静的な初期化ブロックのある Java ファイルでのコード移行ツールエラー。
問題	一部のコンパイラは、単独のセミコロン「;」（空の文）を無視しません。コード移行ツールのパーサの文法には空の文の概念が含まれていないため、エラーが発生する場合があります。
プラットフォーム	すべて

表 6 移行に関する確認済みの制限事項と回避策 (続き)

回避策	<p>この問題を解決するには、エラーを調べて修正し、移行ツールをもう一度実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none">migration.log ファイルを開きます。以下のようなエラーメッセージであることを確認します。<pre><<Date>> <<Time>> MDT 2002 Message:Code Analysis:parse exception: com.company.commerce.migration.code.grammar.ParseException:En countered ";" at line 26, column 6. Was expecting one of: "abstract" ... "boolean" ... "byte" ... <<etc.>> <IDENTIFIER> ... "{" ... "}" ... for file:D:\dev\migration\CodeTest\src\StaticTest.java</pre>余分なセミコロン (;) を取り除きます。移行ツールをもう一度実行します。
CR078719	user_account.wf の PostLoginProcessor に新しいイベントがある。
問題	<p>user_account.wf の postLoginProcessor に WebLogic Portal 4.0 以降の新しいイベントがあります。4.0 では、ポータル Webflow の portalRefreshProcessor のイベントは「success」1 つだけでした。このイベントは 7.0 でも引き続き存在します。一方、新しいイベントが 2 つあります。</p> <p>portalRefreshProcessor にも組み込まれる「user.login」イベントが追加されました。新しいノード createUserProfileProcessor に組み込まれる「user.create」イベントが追加されました。4.0 の Webflow を 7.0 の Webflow に変換するデータ移行ユーティリティは、新しいイベント「user.login」と「user.create」を追加しません。</p>
プラットフォーム	すべて
回避策	<p>イベントおよび関連するノードを 7.0 の user_account.wf ファイルから移行後の 4.0 user_account.wf ファイルに手動でコピーします。</p>

その他の注意事項

この節では、現時点では回避策のない問題について説明します。たとえば、サードパーティの欠陥に関する問題や、WebLogic Portal 7.0 の機能の説明が必要な問題などです。

1. Windows 2000 における [Ctrl] + [C] の動作の違いと、サーバのシャットダウンに対する影響。(CR044098)

[Ctrl] + [C] の動作が、Windows 2000 と Windows NT では異なります。この違いは、サーバのシャットダウン時にサーバのコンソール ウィンドウで [Ctrl] + [C] を入力したときに発生します。Windows 2000 の場合は、[Ctrl] + [C] を入力すると、バッチの実行中のステップが停止し、バッチジョブを中止するかどうかを確認するメッセージが表示されます。「Yes」を入力すると、バッチジョブはそこで停止し、他には何も行われません。その結果、意図的ではなく Java の実行可能プロセスがシステム上で動作したままの状態になる可能性があります。解決策としては、Windows 2000 でのプロンプトに対しては「No」と応答してください。

注意： どのプラットフォームでも、PORTAL_HOME の StopPortal.bat/sh プロシージャを実行してサーバをシャットダウンする方法が推奨されません。

2. UNIX の場合、UpdateLicense.sh で指定するライセンス ファイルのパスではスペースを使用できない。(CR044099)

UNIX システムの BEA_HOME ディレクトリにある UpdateLicense.sh プロシージャは、入力ライセンス ファイルへのパス内にあるスペースを受け付けません。

3. DOS シェルの QuickEdit モードによって、WebLogic Portal のサーバプロセスがロックされる場合がある。(CR059100)

Microsoft Windows システムでは、WebLogic Portal のサーバ プロセスは DOS シェルで動作します。Windows の一部のリリースでは、QuickEdit モードがデフォルトでアクティブになります。このモードがアクティブになっている場合、DOS ウィンドウ内でマウスをクリックしたりポインタをドラッグしたりすると、キーを押すまでコンソールがロックされます。

4. wlcs_customer タイプのユーザは、CustomerProperties プロパティ セットからデフォルト値を継承できない。(CR059684)

wlcs_customer タイプのユーザに対しては、CustomerProperties プロパティ セットのプロパティを null に設定できないので、このタイプのユーザはプロパティ セットのデフォルト値を継承できません。この問題は、顧客以外のプロファイル、および顧客プロファイルの他のプロパティには影響しません。

CustomerProperties の値を null に設定すると、WebLogic Portal Administration Tools では CustomerProperties プロパティ セットに対する継承されたデフォルト値が表示されますが、getProperty の呼び出しからは空の文字列が返されます。

5. 要素を削除しても、その要素が関連付けられているエンティティを再び開いたときに警告されない。(CR060418、CR061615)

キャンペーンによって参照されているセグメントやプレースホルダなど、ドキュメントで参照されている要素を削除した場合、ドキュメントを再び開いた時点で、E-Business Control Center は警告を出しません。

6. IBM DB2 データベースを使用する場合は、テーブル作成時に LOB カラムの最大サイズを指定する必要がある。(CR062937)

IBM DB2 データベースを使用する場合は、テーブルを作成するときに LOB カラムの最大サイズを指定する必要があります。DB2 データベースの作成時または移行時には、以下で示す LOB カラムの最大サイズが適用されます。

```
TABLE COLUMN LOB TYPE/SIZE
P13N
SAMPLE_UUP_INFO USER_INFO CLOB(8K)
DATA_SYNC_ITEM XML_DEFINITION CLOB(500K)
AD_BUCKET AD_QUERY CLOB(25K)
MAIL_MESSAGE MESSAGE_TEXT CLOB(25K)
PLACEHOLDER_PREVIEW XML_DEFINITION CLOB(25K)
ENTITLEMENT_RULESET RULESET_DOCUMENT CLOB(256K)
CATALOG_PROPERTY_VALUE BLOB_VALUE BLOB(8K)
PROPERTY_VALUE BLOB_VALUE BLOB(10K)
WLCS
DISCOUNT DISCOUNT_RULE CLOB(8K)
EVENT/BEHAVIOR TRACKING
TABLE EVENT XML_DEFINITION CLOB(200K)
```

7. Oracle に関する制限事項 : JDBC Thin を使用する UTF8 データベースからの CLOB データの読み取り。(CR066757)

Oracle Thin ドライバ 8.1.7 では、UTF8 データベースからの CLOB の読み取りに関してバグが確認されています。10838 個より多い 2 バイト文字の

CLOB データを読み取ると、エラーが発生します。Oracle のバグ番号は 2140668 です。

ただし、このバグは Oracle Thin ドライバ 9.0.2 では解決されています。

8. p13n サンプル アプリケーションの出力で HTML の検証エラーが発生する。(CR069941)

サンプル アプリケーションに対する HTML 出力では、ヘッダーだけでなく本体にもメタ タグがあり、HTML 4.0.1 の検証エラーの原因になります。すべてのブラウザはページを表示する際にこのタグを無視するので、この問題によるエンド ユーザへの影響はありません。

9. stopportal.sh ファイルの実行に失敗する。(CR070566)

CDE Solaris の環境では、stopportal.sh を呼び出すアイコンをダブルクリックしてサーバを停止しようとする、サーバは正しくシャットダウンしますが、端末のウィンドウはハングし、コマンド プロンプトに戻ることも終了することもできなくなります。手動でウィンドウを閉じる必要があります。これは CDE Solaris の環境に関して確認されている問題であり、BEA 製品の問題ではありません。

10. E-Business Control Center のインストール時の画像に UNIX が表示される。(CR074402)

E-Business Control Center は UNIX インストーラで提供されていますが、BEA はこれをサポートしていない場合もあります。詳細については、サポート対象のプラットフォームのページを参照してください。

11. PointBase でのカタログ ブラウザのコンフィグレーションに時間がかかる。(CR076472)

データベースとして PointBase を使用するコンフィグレーションでは、E-Business Control Center の割引エディタのトリガ商品ブラウズ機能の動作が遅くなります。

PointBase データベースを使えば、WebLogic Portal をインストールしてすぐいくつかの機能を使用できます。コマース テンプレートでのカタログ ブラウズといった一部の機能のパフォーマンスは、別途セットアップが必要な他のデータベースを使うと向上する場合があります。

12.1 つのポータル ページに同じ Web サービスを使用するポートレットが複数あると、それぞれのフィールドに同じ情報が設定される。(CR076353)

1つのポータルページに同じWebサービスを呼び出す異なるポートレットが複数あると、Webサービスのフィールドに同じ情報が設定されます。

例：

WebサービスFederal Express Trackingを呼び出す異なる2つのポートレットをPortlet Wizardで作成し、両方のポートレットを同じポータルページに追加し、ブラウザでポータルを開いて、一方のポートレットに追跡番号「12345」を入力して送信すると、「12345」に対する追跡情報が両方のポートレットに表示されます。

13. LDAP V2 レルムのコンフィグレーションでは、um:getParentGroupName タグが親を取得しない。(CR078104)

LDAP V2 レルムのコンフィグレーションでは、um:getParentGroupName タグが親グループの名前を取得しません。

14. Web サービスから操作を取得すると、例外が発生する。(CR078835)

WebサービスがDelphiで記述されている場合、Web Services Portlet Wizardを使ってWSDLに基づいてポートレットを生成しようとする、例外が送出されます。

15. Web Services Portlet Wizard の複数のインスタンスを同時に実行できない。(CR078905)

Web Services Portlet Wizard の複数のインスタンスを同じマシン上で実行することはできません。

16. マップされたドライブ上で稼働するサーバにホット デプロイできない。(CR079356)

マップされたドライブ上で稼働するサーバに対しては、ホット デプロイを実行できません。

17. LDAP レルム sampleportal の使用中にパスワードを変更すると、実行時エラーが発生する。(CR079508)

LDAP レルムの使用中に sampleportal でパスワードを変更しようとする、実行時エラーが発生し、適切な説明が示されません。

以下のエラー例を参照してください。

```
<Oct 15, 2001 5:40:12 PM MDT> <Error> <Usermgmt> <Password change failed for user testuser1>
```

```
Runtime Error...
Remote exception UserManager
Stack Trace...
com.bea.pl3n.appflow.exception.ProcessingException:Remote
exception
UserManager at
com.bea.portal.appflow.processor.security.SetPasswordFormProcesso
r.setPassword(SetPasswordFormProcessor.java:145)
at. . .
```

18. データベースのバージョンに関係なく、Oracle Thin ドライバの最新バージョンを使用する必要がある。(CR079799)

WebLogic Server には両方のドライバクラスが付属しており、現在は Oracle 817 がデフォルトです。Oracle によれば、データベースのバージョンに関係なく、Thin ドライバの「最新の」バージョンを使用する必要があります。つまり、Oracle は、Oracle 817 または Oracle 9i では最新の 9i Thin ドライバの使用を推奨しています。

19. コード移行ツールが、あるクラスによって行われるそのクラスでのメソッド呼び出しに不正な注釈を付ける。(CR080129)

この問題は、あるクラスのメソッドが、同じクラスまたはそのクラスがベースになっているクラスの別のメソッドを呼び出している場合に発生します。この呼び出しは、「variableName.getValue()」や「ClassName.getValue()」のようなタイプの呼び出しではなく、「getValue()」のような単純なメソッド呼び出しによって行われます。

コード移行ツールは、「this.getValue()」のような呼び出しを正しく解釈しますが、このとき、処理対象のファイルに存在するすべての implements 文と extends 文を見つけて、そのクラスの定義自体だけから派生しているものと見なします。この想定は、別のクラスを継承する内部クラスが同じファイル内で定義されているような場合には正しくありません。これらの文で任意の種類のマッピングエントリを持つ最初のものは、そのメソッドに対して必要な注釈であると見なされます。分析対象のソースファイルの違いにより、この問題の出現状況にはいくつかの種類があります。

たとえば、分析対象のクラスが、変更されたクラスを継承している場合や変更されたインタフェースを実装している場合、またはマップファイルで注釈が必要と指定されているだけの場合でも、この問題が発生する可能性があります。メソッドがサブクラスで定義されていて、マップで実際に指定されて

いるクラスまたはインタフェースでは定義されていない場合でも、そのメソッドには常に注釈が付きます。

もう1つの例として、あるクラスの中で定義されている内部クラスが、移行マップのいずれかで参照されているクラスを継承または実装している場合にも、この問題が発生します。次に示すのは、この問題が発生する Test クラスの一部です。

```
public class Test {
    public void testExtendsImplements() {
        class MinorCowboys extends Cowboys {
        }
        class HighSchoolCowboys extends nfl.dallas.Cowboys {
        }
        class Raiders implements Cowboys {
        }
        class MinorRaiders implements nfl.dallas.Cowboys {
        }
    }
    ...
    public void testMethods() {
        Cowboys cowboys = new Cowboys();
        cowboys.pass(100, "HailMary");
        cowboys.run(100, "Middle");
        String s = Cowboys.getStadiumName();
        s = nfl.dallas.Cowboys.getStadiumName();
        int i = Cowboys.stadiumZipcode;
        testReturns();
    }
    public void testReturns() {
        class ReturnTest {
            public Cowboys getCowboys() {
                return new Cowboys();
            }
            public nfl.dallas.Cowboys getMoreCowboys() {
                return new Cowboys();
            }
            public FootballTeam getFootballTeam() {
                return (FootballTeam) new Object();
            }
        }
    }
}
```

Test クラスの testMethods() メソッドでは、Test クラスの testReturns() メソッドを呼び出しています。マップでこのメソッドが参照されていない場合でも、または Test クラスが参照されていない場合でも、このメソッドには注釈が付く可能性があります。まず、nfl.dallas.Cowboys がコードマップで参照されているものとしします。その場合、Test クラスの先頭近くにある、nfl.dallas.Cowboys または Cowboys を継承または実装する内部クラス定義のため、コード移行ツールは、誤って、testReturns() が nfl.dallas.Cowboys クラスの一部であるものと判断します。その結果、

Test クラスの `testReturns()` メソッドには、Cowboys クラスで指定されているクラス レベルの注釈が付けられます。

20. コード移行ツールの「外部ビューア」機能が、UNIX では使用できない。(CR080150)

コード移行ツールでは、「外部ビューア コマンド」のボックスでテキスト エディタを指定するために、外部ビューア機能を使用する必要があります。コード移行ツールの表示で移行対象ファイルのいずれかをクリックすると、指定したエディタでファイルが開かれます。残念ながら、UNIX ではこの機能は使用できません。

21. Webflow ファイルを削除すると、E-Business Control Center のポートレット エディタ ウィンドウで Webflow が「なし」となっても、ポートレット ファイルは更新されない。(CR080572)

E-Business Control Center の Portlet Wizard では、Webflow 付きでポートレットを提供するようオプションを選択すると、ポートレットは `<webflow-filename>delete</webflow-filename>` エントリで定義されません。したがって、Webflow は定義されません。

E-Business Control Center で Webflow を削除し、関連するポートレット エディタ ウィンドウを開くと、Webflow の選択は「なし」と表示されます。ところが、`portlet.xml` ファイルには

`<webflow-filename>delete</webflow-filename>` エントリが残っています。この状態でポータルにアクセスすると、例外が発生します。

22. 7.0 SP2 以降、WebLogic Portal では Oracle 8.1.7 および Oracle 9i リリース 2 用の WebLogic jDriver をサポートしています。7.0 SP2 をご使用の場合は、パッチ CR088530 を BEA カスタマ サポートから入手してください。7.0 SP2 より新しいサービス パックをご使用の場合、パッチは必要ありません。

